

文部科学省  
大学教育再生加速プログラム採択事業  
(テーマV「卒業時における質保証の取組の強化」)

# 東京薬科大学 卒業生調査

## 報告書

平成 30 年 2 月

東京薬科大学



# 目次

第 1 章 調査概要 .....	2
学部別編	
第 2 章 大学入学前のことについて .....	14
第 3 章 学部時代のことについて .....	19
第 4 章 修士課程の状況 .....	31
第 5 章 職業・キャリアについて .....	34
第 6 章 仕事と暮らしについて .....	52

## 第1章 調査概要

---

本調査研究の調査概要は、以下のとおり

### 1-1 調査目的

文部科学省大学教育再生戦略推進費 大学教育再生加速プログラム 計画調書に基づき、東京薬科大学卒業生を対象にアンケート調査を実施し、①本学の教育において身に付けた能力、社会において必要と感じる能力を抽出し、本学が設定すべき卒業コンピテンス・コンピテンシーを明らかにする。また、②卒業論文研究の効用を明らかにすると共に、③本学における学修経験と卒業後のキャリア形成との関係を把握する。以上を統計的に分析することにより、これまで本学が教育機関として果たしてきた役割を評価するとともに、未来に向けた本学における教育・研究の礎となる情報を集成し、東京薬科大学の卒業時の質保証に資することを目的とする。

## 1-2 調査概要

### (1)調査票の作成

下記の卒業生調査ワーキンググループを組織し、調査票を作成した。

#### 卒業生調査ワーキンググループ

氏名	役職
◎矢野 眞和	特命教授
○日下田 岳史	特命講師
○横松 力	特命教授
稲葉 二郎	薬学部 教授
三浦 典子	薬学部 教授
高橋 勇二	生命科学部 教授
安藤 堅	薬学部 准教授
片野 修一郎	薬学部 准教授
玉腰 雅忠	生命科学部 准教授
別生 伸太郎	薬学部 講師
増田 多加子	薬学部 講師
内田 隆	生命科学部 講師
高山 知久	学務部 部長
岩井 芙斗士	学務部 学務課

◎委員長 ○副委員長

※役職については平成 30 年 2 月時点のものです。

### (2)調査対象

東京薬科大学卒業生（昭和 47 年 3 月～平成 29 年 3 月卒業生全員、及び、昭和 46 年 3 月卒業者に限りランダムサンプリング） 計 17,756 人

(3)調査方法

郵送送付・郵送回収

また、WEB 回答画面も作成し、WEB でも回答可能なようにした。

(4)調査時期

平成 29 年 9 月 15 日 (金) ～11 月 27 日 (月)

(5)有効回収数

5,083 件 (回収率 28.6%)

(6)調査委託先

株式会社リベルタス・コンサルティング

### 1-3 回答者属性

#### (1) 性別

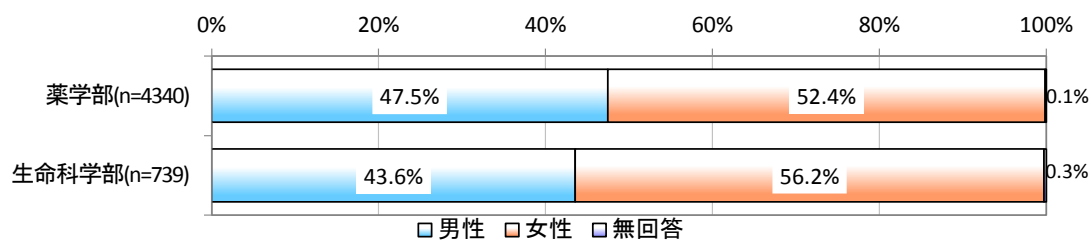


図 1-1 学部別 性別

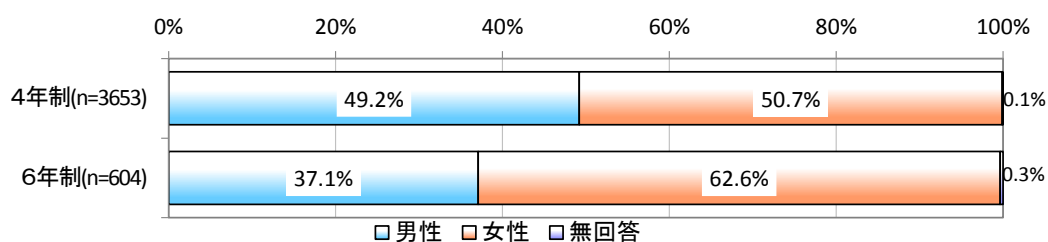


図 1-2 薬学部 4/6 年制別 性別<sup>1</sup>

#### (2) 年齢

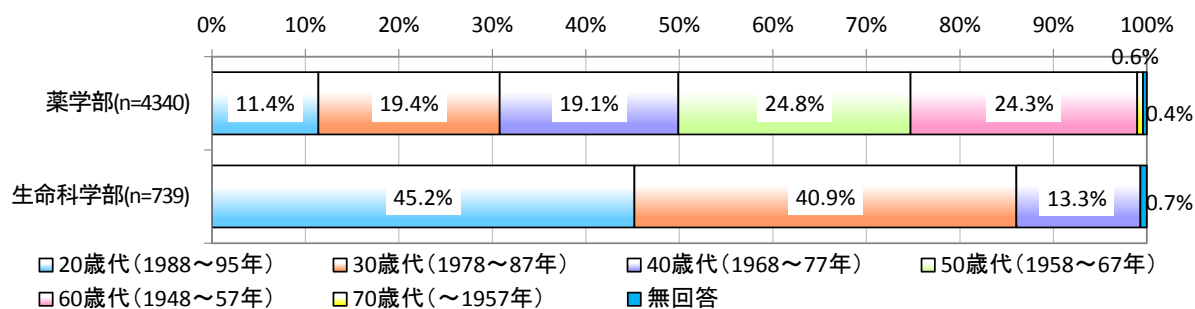


図 1-3 学部別 年齢区分

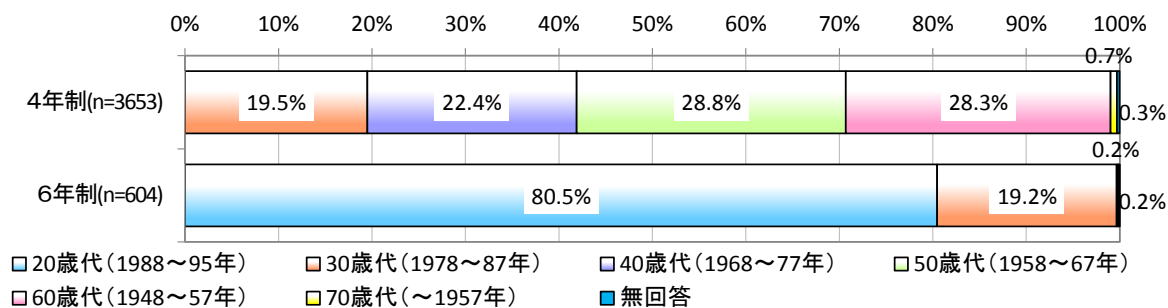


図 1-4 薬学部 4/6 年制別 年齢区分

<sup>1</sup> 入学年度が無回答なサンプルがあるため、薬学部の n 数と、4 年制と 6 年制の n 数の合計値は一致していない。以下同様。

(3) 出身高校の所在地

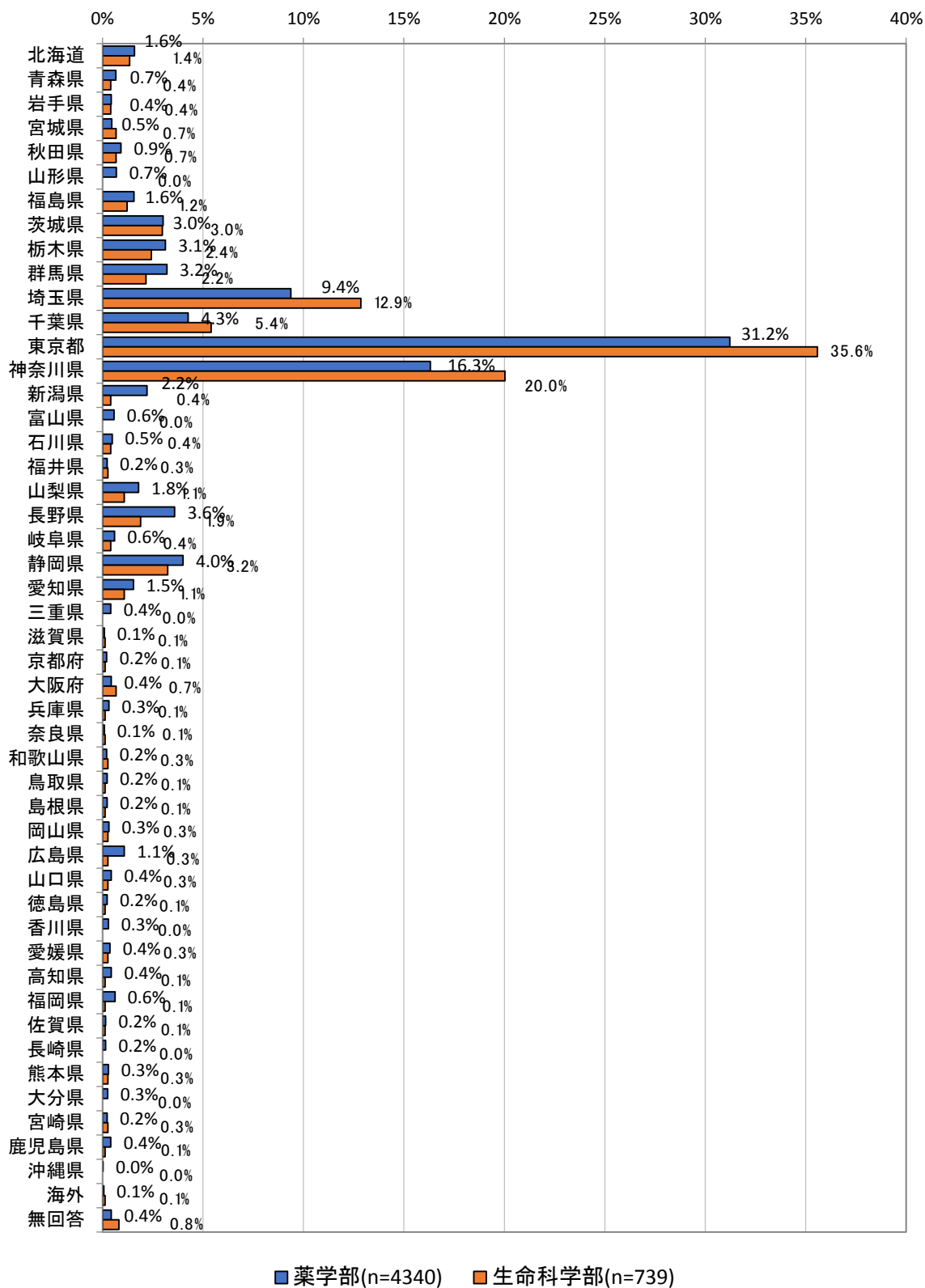


図 1-5 学部別 出身高校所在地

(4)入学の形態

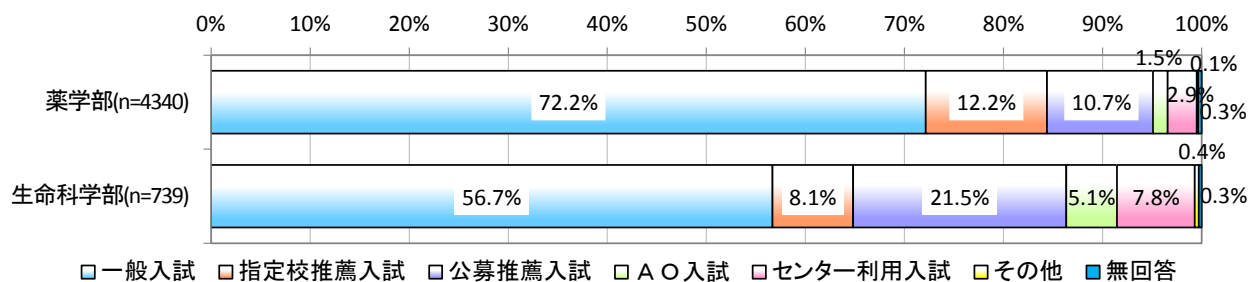


図 1-6 学部別 入学の形態

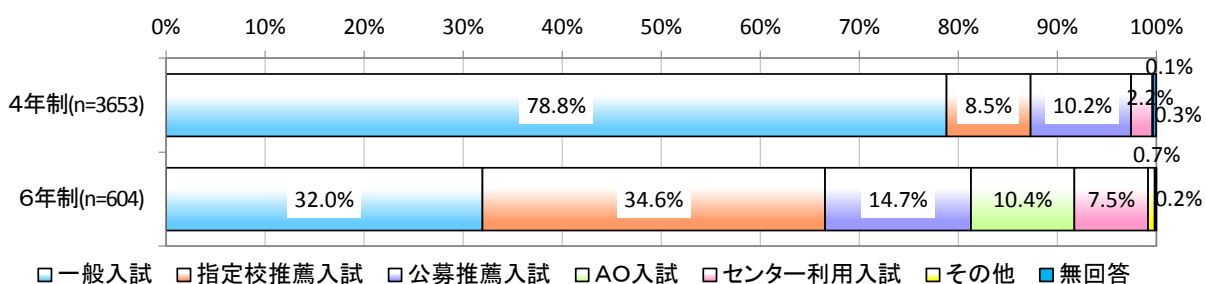


図 1-7 薬学部 4/6 年制別 入学の形態



(5)入学した時の志望順位

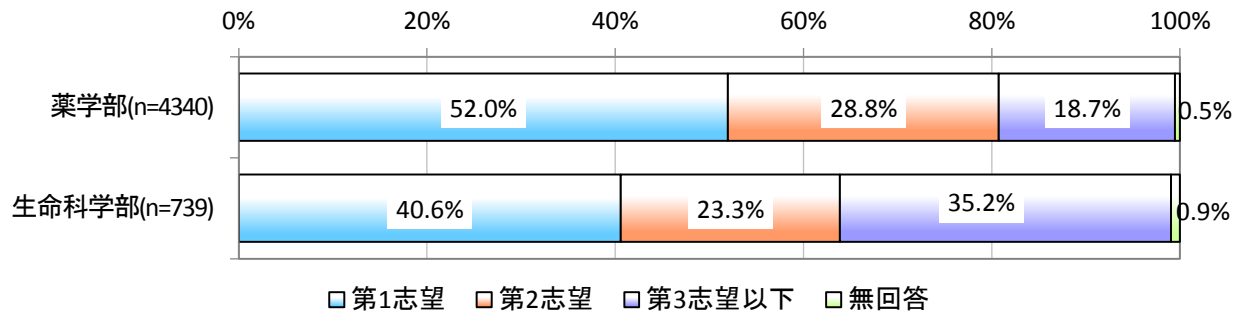


図 1-8 学部別 入学した時の志望順位

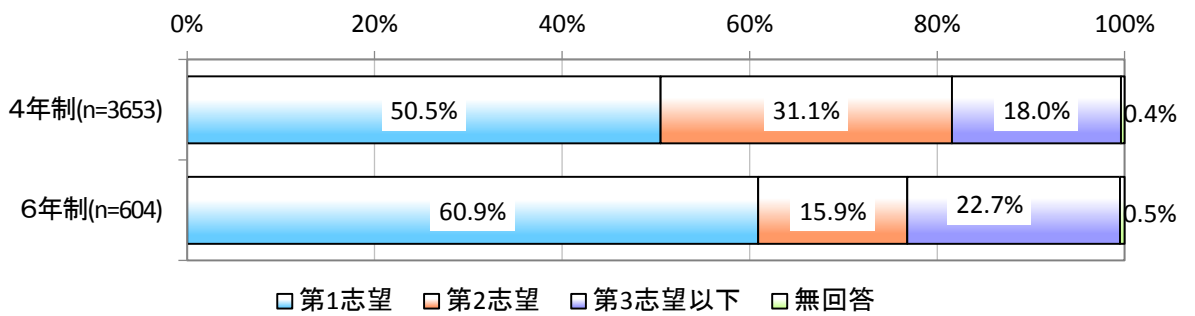


図 1-9 薬学部 4/6 年制別 入学した時の志望順位

(6) 現役入学率・浪人率

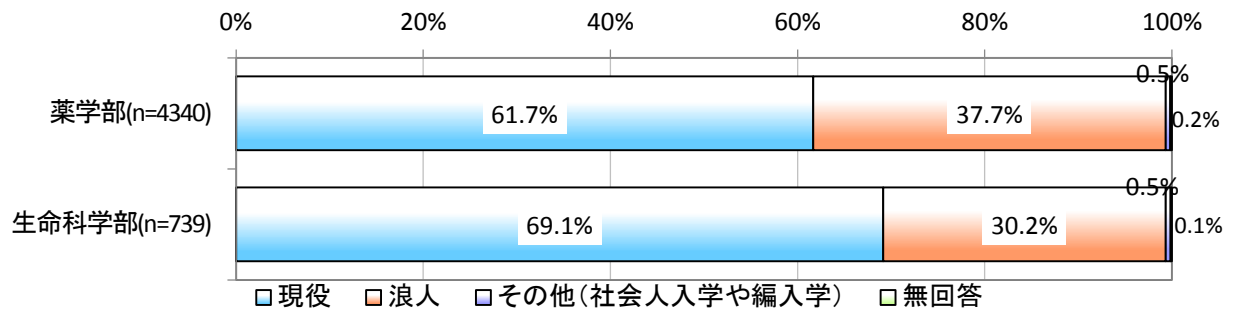


図 1-10 学部別 現役入学率・浪人率

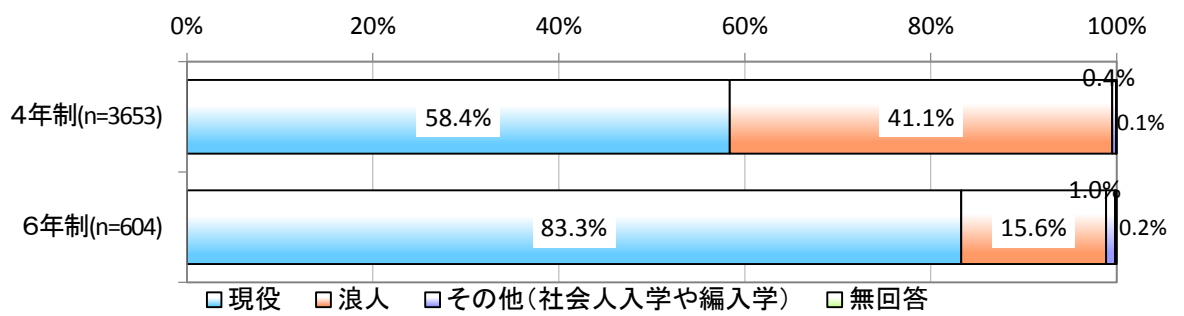


図 1-11 薬学部 4/6 年制別 現役入学率・浪人率

(7)最終学歴

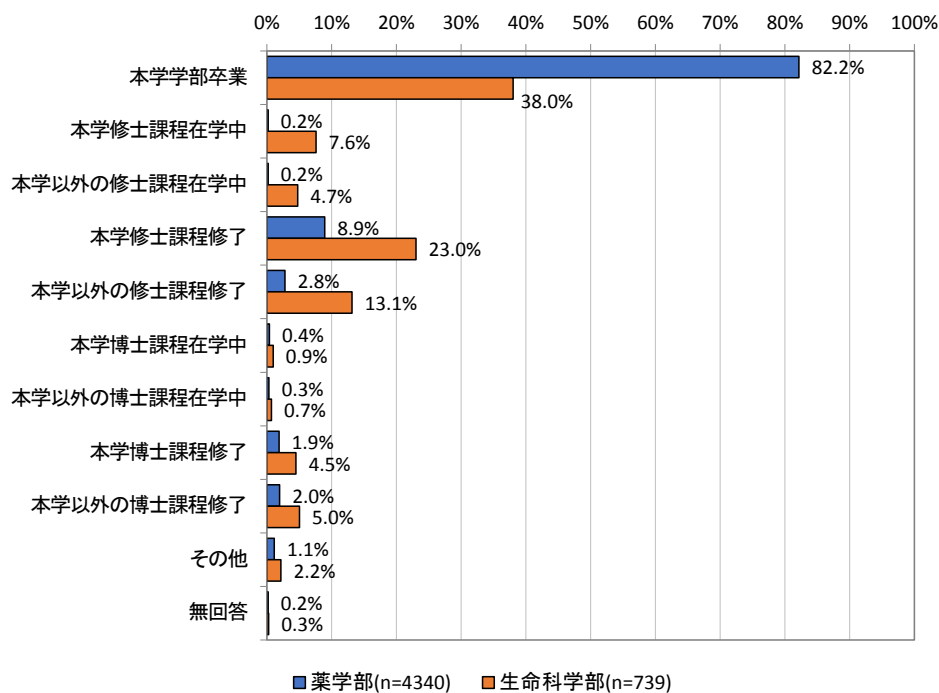


図 1-12 学部別 最終学歴

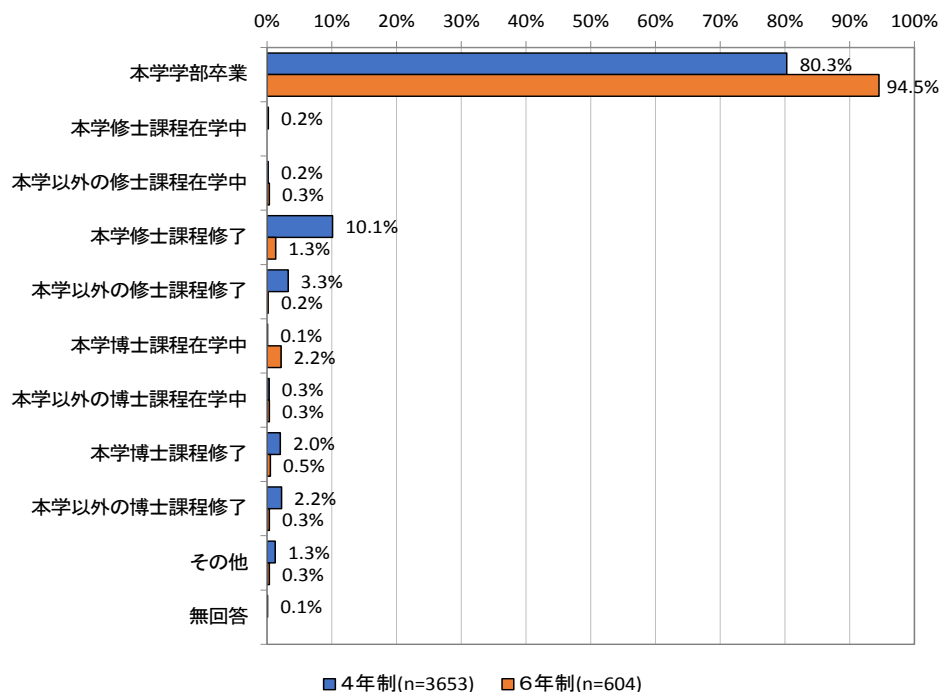


図 1-13 薬学部 4/6 年制別 最終学歴

#### 1-4 調査結果のポイント

##### ①大学教育において身に付けた能力、社会において必要な能力について

大学卒業時に身につけた能力については、両学部とも「大学で専攻した分野に関連する専門知識・技能」と『最後までやり遂げる力（「他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力」「適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力」）』が高い。

特に、「大学で専攻した分野に関連する専門知識・技能」については、卒業後に身につけた割合は上昇しておらず、大学時に身につけるべき能力といえる（「大学で専攻した分野に関連する専門知識・技能」以外の能力は、卒業後にも成長の余地がある能力であることがわかる。）。

なお、大学卒業時に身につけた能力は、薬学部より生命科学部で、薬学部4年制より6年制で割合が高い。生命科学部と薬学部6年制を比較すると同程度の割合となっている（生涯にわたり自己学習する能力は、薬学部6年制でやや高い）。これは、近年に大学教育が充実してきたことを表している可能性もある一方、若い世代の方が真面目に勉強している、あるいは自己評価が高いといった可能性もある。引き続き検証が必要といえる。

次に、卒業時に身につけた能力と、卒業までに身につけておくべき（と現在社会人である卒業生が認識している）能力を比較した。その結果、薬学部、生命科学部共に「国際人として活躍するために必要な基礎的知識や英語力」「自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーションをする能力」において、身につけておくべき能力より卒業時に身につけた能力の割合が低い。この2項目については、教育内容を改善すべき項目であるといえる。

##### ②卒業論文研究の効用について

卒業論文研究の振り返りについてみると、大学教育において身に付けた能力と同様に、『専門分野の知識（「専門分野の知識を深く理解するうえで有益だった」）』と『最後までやり遂げる力（「困難なことを最後までやり遂げる重要性が実感できた」）』の獲得に効果があったとする回答割合が高い。その他の項目についても「卒業論文研究のテーマは、卒業後の進路や現在の仕事に関係している」以外については、あてはまるとする回答割合が高く、卒業論文は、（就職後の仕事には直結しないものの）大学教育の集大成として各種の知識や能力を習得するための機会となっていることがわかる。

これを学部で比較した場合、薬学部より生命科学部で割合が高くなっている。学部時代に熱心に取り組んだ項目についてみても、生命科学部が卒業論文の割合が高いのに対し、薬学部では薬剤師国家試験の割合の方が高い（生命科学部にはこの項目が存在しない）。学部によって、卒業論文研究の位置づけが異なることが、効果の差になって表れていることが推察される。ただし、生命科学部と薬学部 6 年制を比較すると各項目の差は同程度となっている。また、卒論における教員の指導に対する評価は、薬学部 4 年制と比べて、生命科学部、薬学部 6 年制の方が高い。近年、東京薬科大の卒業論文指導が良くなってきたことを表していると考えられる。

### ③卒業後のキャリア形成について

東京薬科大学への進学理由をみると、薬学部では「資格が取得できる」「就職に有利」と卒業後のキャリアを明確に意識した回答の割合が高い。一方、生命科学部は、「興味のある分野の研究ができる」など学問テーマへの関心が進学の原因となっている。

就職後の進路についても、薬学部の方が「初めから就職したいと思っていた企業」「専攻した分野と大いに関連がある仕事」に就いた割合が高い。また、薬学部の就職先は「製薬」「病院・診療所」「(調剤) 薬局」で「薬剤師職」の割合が高いのに比べると、生命科学部の就職先業種・職種は幅広いといえる。ただし、幅広い中でも生命科学部では「研究 (20.5%)」「臨床開発 (モニター・データマネジメント・治験コーディネーター等) (17.8%)」の割合がやや高く、一定程度の卒業生は、(大学での専門を活かせる) 研究関連の職についていることがわかる。

薬学部 4 年制と 6 年制を比較すると、「薬剤師職」への意向がより強まっていることがわかる。6 年制では、進学理由の「就職に有利」の割合がより高い。さらに、「薬剤師職」への就職が 7 割となっている (4 年制では 4 割)。薬学部が 6 年制になったことで、よりキャリア意識が明確になった学生が入学してきていることがわかる。

# 学部別編

## 第2章 大学入学前のことについて

### 2-1 高校生時代の状況

#### 2-1-1 学部別

高校生時代にあてはまることをきいたところ、薬学部では、「授業で分からなかったところは自分で考えたり調べたりした (79.6%)」「勉強方法は暗記中心だった (63.7%)」で、あてはまる (とてもあてはまる+ややあてはまる) と回答した割合が高い。

生命科学部も同様に「授業で分からなかったところは自分で考えたり調べたりした (74.8%)」「勉強方法は暗記中心だった (61.6%)」があてはまると回答した割合が高い。

薬学部と生命科学部を比較すると、生命科学部の方が薬学部より「授業時間以外に、科学的研究の記事や論文を読んだ」にあてはまると回答した割合が 10 ポイント程度高い。

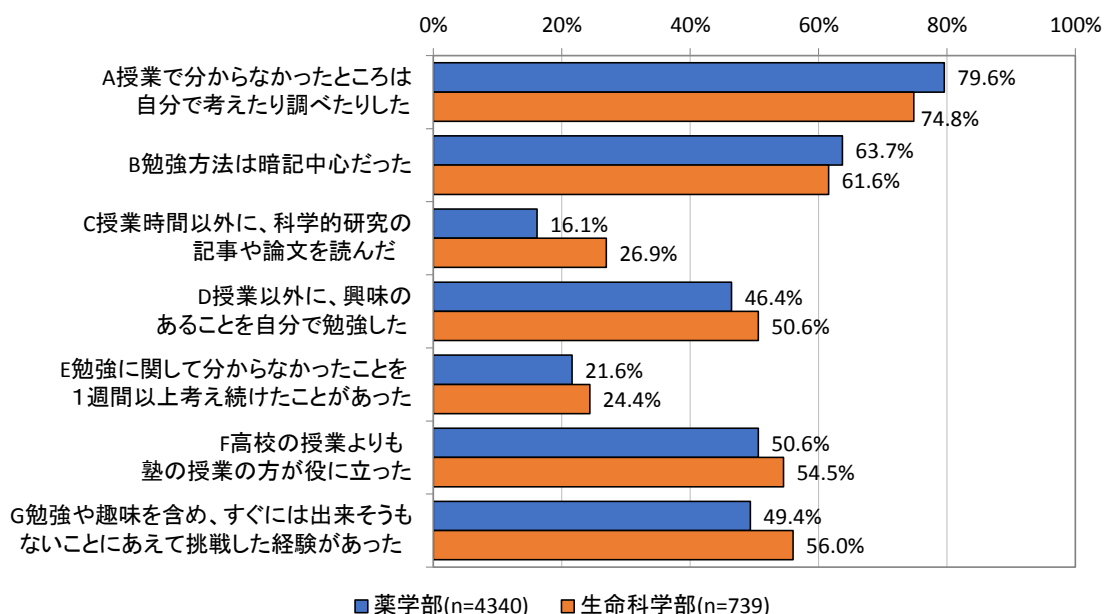


図 2-1 学部別 高校生時代の状況 (問 1)

(あてはまる (とてもあてはまる+ややあてはまる) 割合)

## 2-2 卒業した高校の大学、短大への進学者

卒業した高校における大学、短大（専門学校は含まない）への進学者の割合をみると、薬学部、生命科学部共に、「ほとんど全員」と回答した割合が6割以上と最も高い。

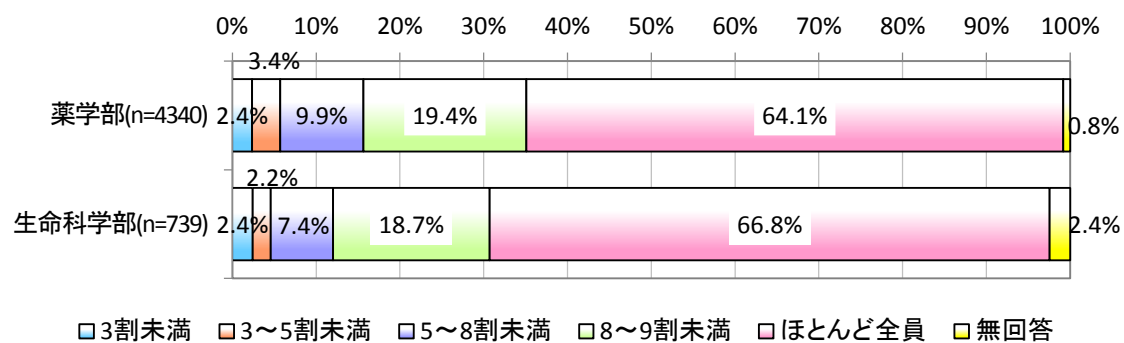


図 2-2 学部別 卒業した高校の大学、短大への進学者（問 2）



### 2-3 高校生時代の部活動・生徒会活動

高校生時代の部活動についてきいたところ、薬学部は6割以上、生命科学部においては7割以上が「2年以上活動した」と回答している。

高校生時代の生徒会活動について、は薬学部、生命科学部共に8割以上が「まったく経験しなかった」と回答した。

学部による大きな差は見られなかった。

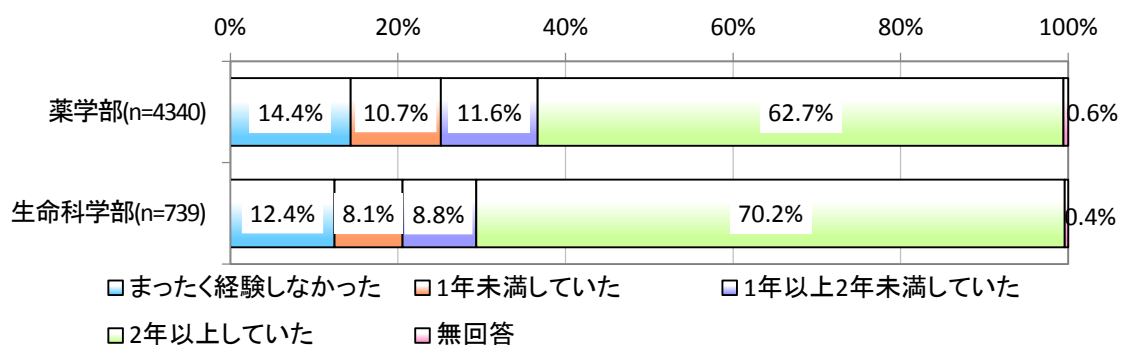


図 2-3 学部別 高校生時代の部活動 (問 3-A)

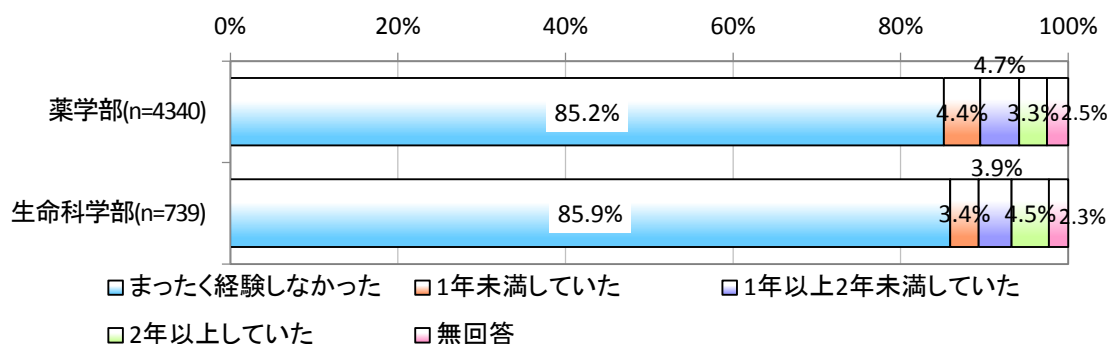


図 2-4 学部別 高校生時代の生徒会活動 (問 3-B)

## 2-4 受験を決めた理由

東京薬科大学への受験を決めた理由をみると、薬学部では、「専門的知識を身につけられるから (92.5%)」「資格が取得できるから (92.3%)」「化学や生物に興味があったから (82.7%)」にあてはまる (とてもあてはまる+ややあてはまる) と回答した割合が高い。

生命科学部では、「化学や生物に興味があったから (97.8%)」「専門的知識を身につけられるから (90.8%)」「興味のある分野の研究ができると思ったから (90.8%)」があてはまると回答した割合が高い。

薬学部と生命科学部を比較すると、「就職に有利だと思ったから (薬学部 75.7%・生命科学部 31.9%)」「資格が取得できるから (薬学部 92.3%・生命科学部 14.5%)」において薬学部の方があてはまると回答した割合が高い。一方、「興味のある分野の研究ができると思ったから」の項目については、生命科学部 (90.8%) の方が、薬学部 (53.2%) にくらべてあてはまると回答した割合が高い。

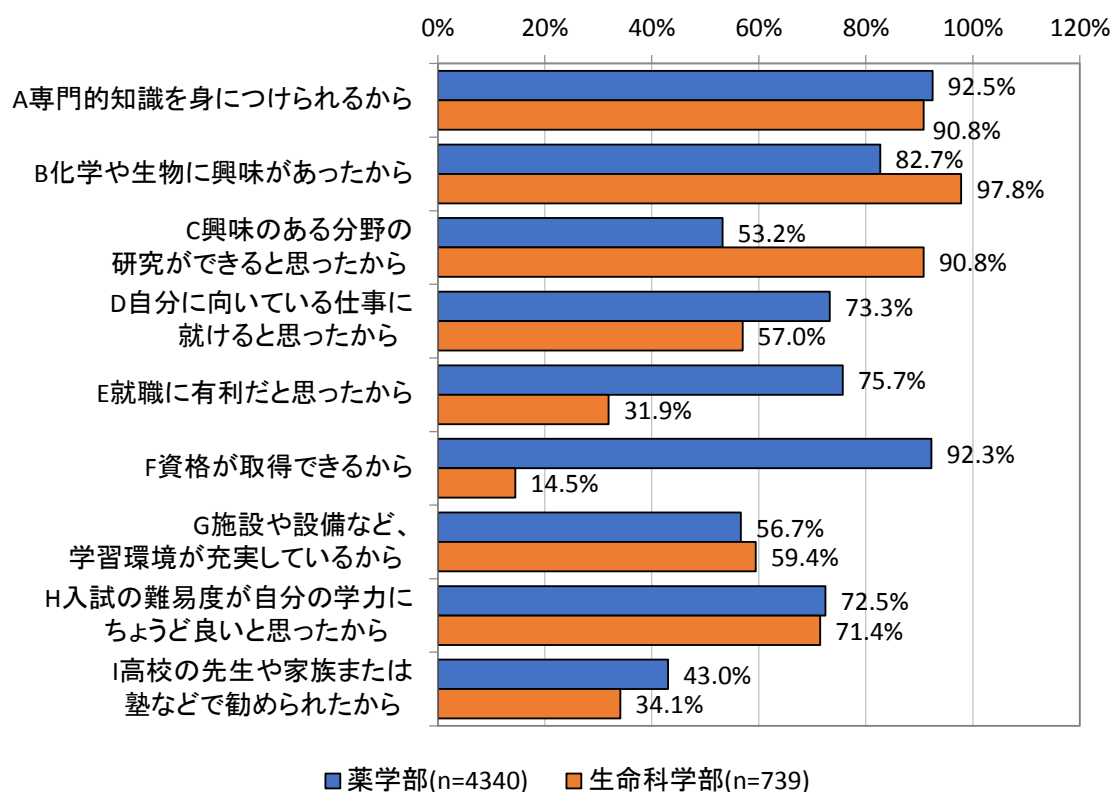


図 2-5 学部別 東京薬科大学への受験を決めた理由 (問 4)  
(あてはまる (とてもあてはまる+ややあてはまる) 割合)

## 2-5 中学生・高校生時代の成績

中学生・高校生時代の成績についてみると、薬学部では、中学3年生の時には8割以上が「上のほうであった（やや上+上のほう）」と回答。生命科学部も7割以上が「上のほうであった」と回答した。

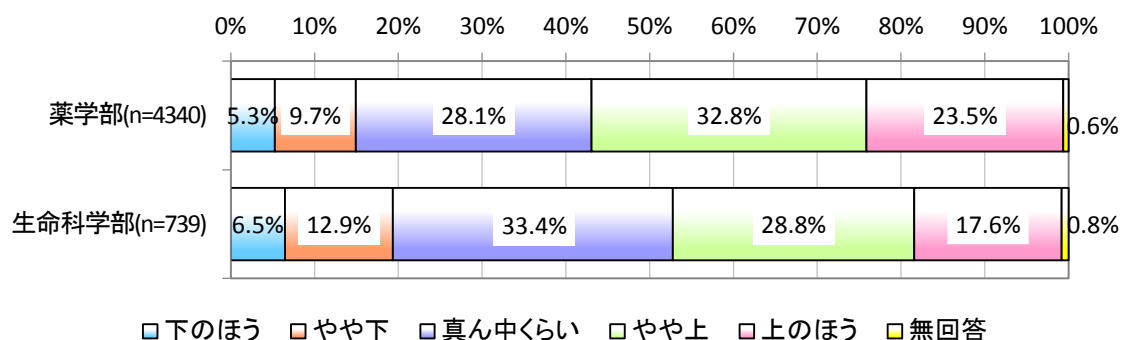


図 2-6 学部別 高校生3年生時の成績（問5-A）

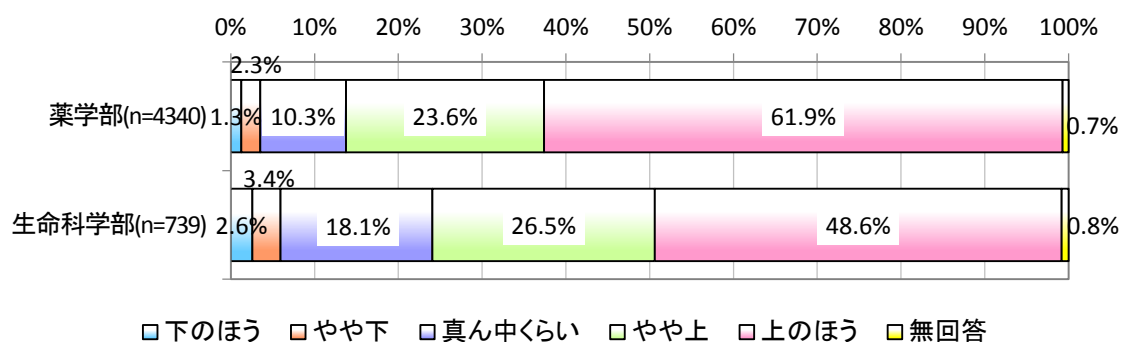


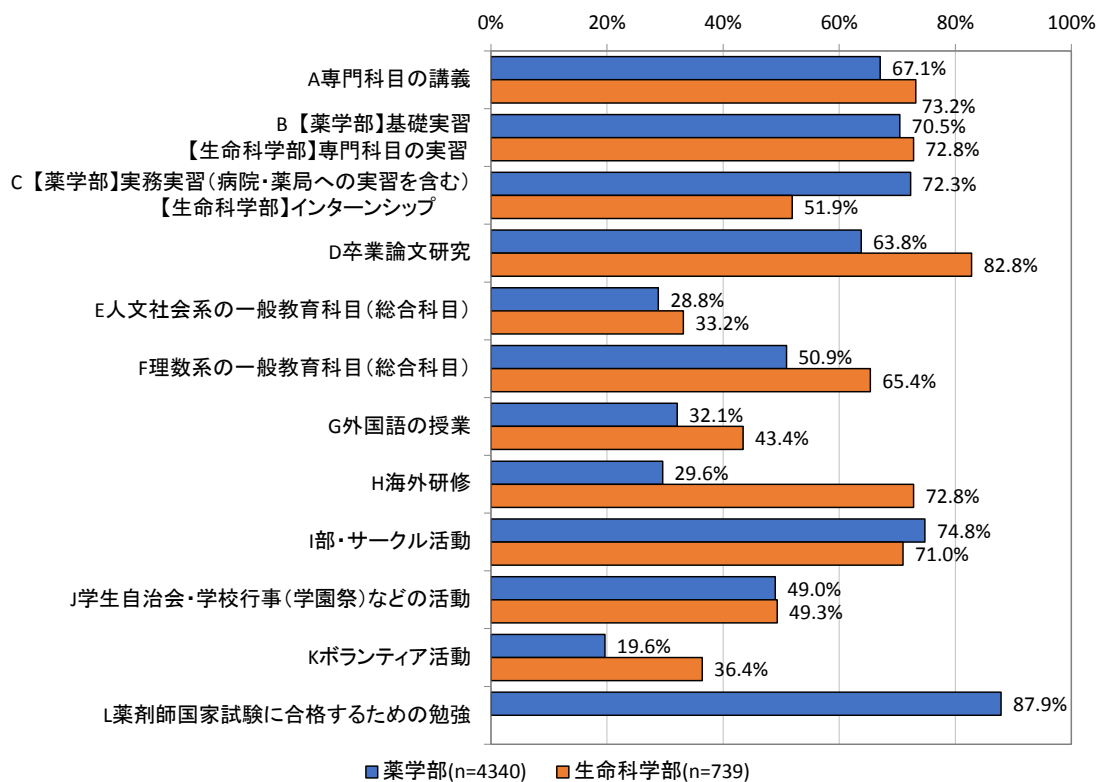
図 2-7 学部別 中学生3年生時の成績（問5-B）

### 第3章 学部時代のことについて

#### 3-1 学部時代に熱心に取り組んだ活動

学部在学中どのような活動に熱心に取り組んでいたかをきいたところ、薬学部は「薬剤師国家試験に合格するための勉強（87.9%）」において、あてはまる（とてもあてはまる＋ややあてはまる）と回答した割合が高い。

生命科学部では、「卒業論文研究（82.8%）」があてはまると回答した割合が高い。薬学部と生命科学部を比較すると、生命科学部の方が薬学部より「海外研修」「ボランティア活動」「卒業論文研究」にあてはまると回答した割合が高い。



※「実務実習／インターンシップ」「海外研修」「部・サークル活動」「学生自治会・学校行事（学園祭）などの活動」「ボランティア活動」は、経験しなかったものは割合算出の母数から除いている。

図 3-1 学部別 熱心に取り組んだ活動（問 6）  
（あてはまる（とてもあてはまる＋ややあてはまる）割合）

### 3-2 積極的に出席した科目の割合

積極的に出席したくなる科目がどれくらいあったかきいたところ、専門科目の講義においては、薬学部・生命科学部共に大きな違いはなく、「5割以上あった（薬学部 37.9%、生命科学部 36.1%）」と「3～4割ほどあった（薬学部 34.7%、生命科学部 37.5%）」の割合が高い。

薬学部【基礎実習】、生命科学部【専門科目の実習】に対する質問においては、「5割以上あった（薬学部 40.4%、生命科学部 44.5%）」「3～4割ほどあった（薬学部 32.5%、生命科学部 30.6%）」となり、異なる科目ながら近い比率だった。

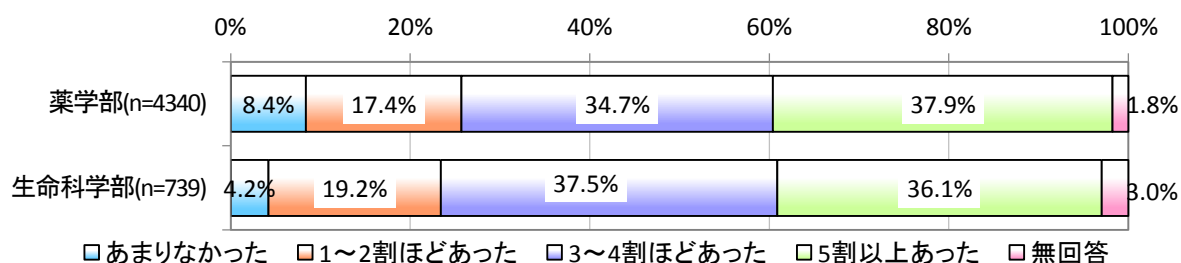


図 3-2 学部別 専門科目の講義で積極的に出席した科目の割合（問7-A）

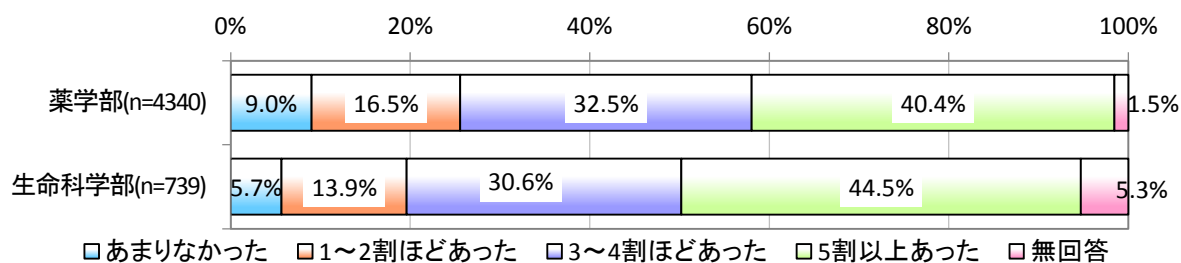


図 3-3 学部別 基礎実習（薬学部）/専門科目の実習（生命科学部）で積極的に出席した科目の割合（問7-B）

### 3-3 在学中 1 週間の時間の使い方

在学中の平均的な時間の使い方についてきいたところ、薬学部は、「授業とは関係ない自主的な学習(44.7%)」「個人的な趣味活動やお稽古事など(32.8%)」「アルバイト(36.0%)」をほとんどしないとの回答が多かった。一方で「部・サークル活動、学生自治会、学校行事(学園祭)」に時間を費やす回答が8割を超えた。

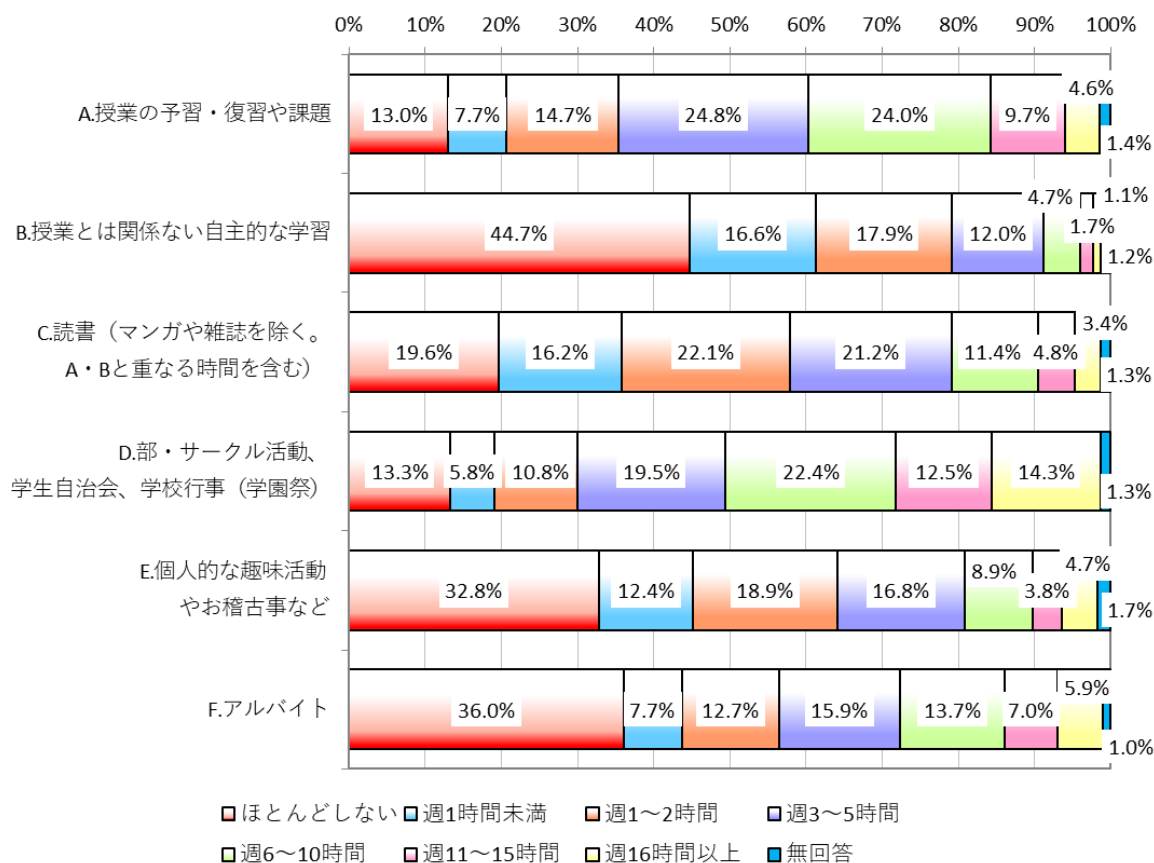


図 3-4 学部別 在学中 1 週間の時間の使い方 (薬学部 : n=4340) (問 8)

生命科学部は「部・サークル活動、学生自治会、学校行事（学園祭）（25.4%）」にほとんど時間を費やさないとの回答が多かった。

薬学部と生命科学部を比較すると、「授業とは関係ない自主的な学習」「個人的な趣味活動やお稽古事など」「アルバイト」などに時間を費やす割合が、生命科学部は薬学部より高い。

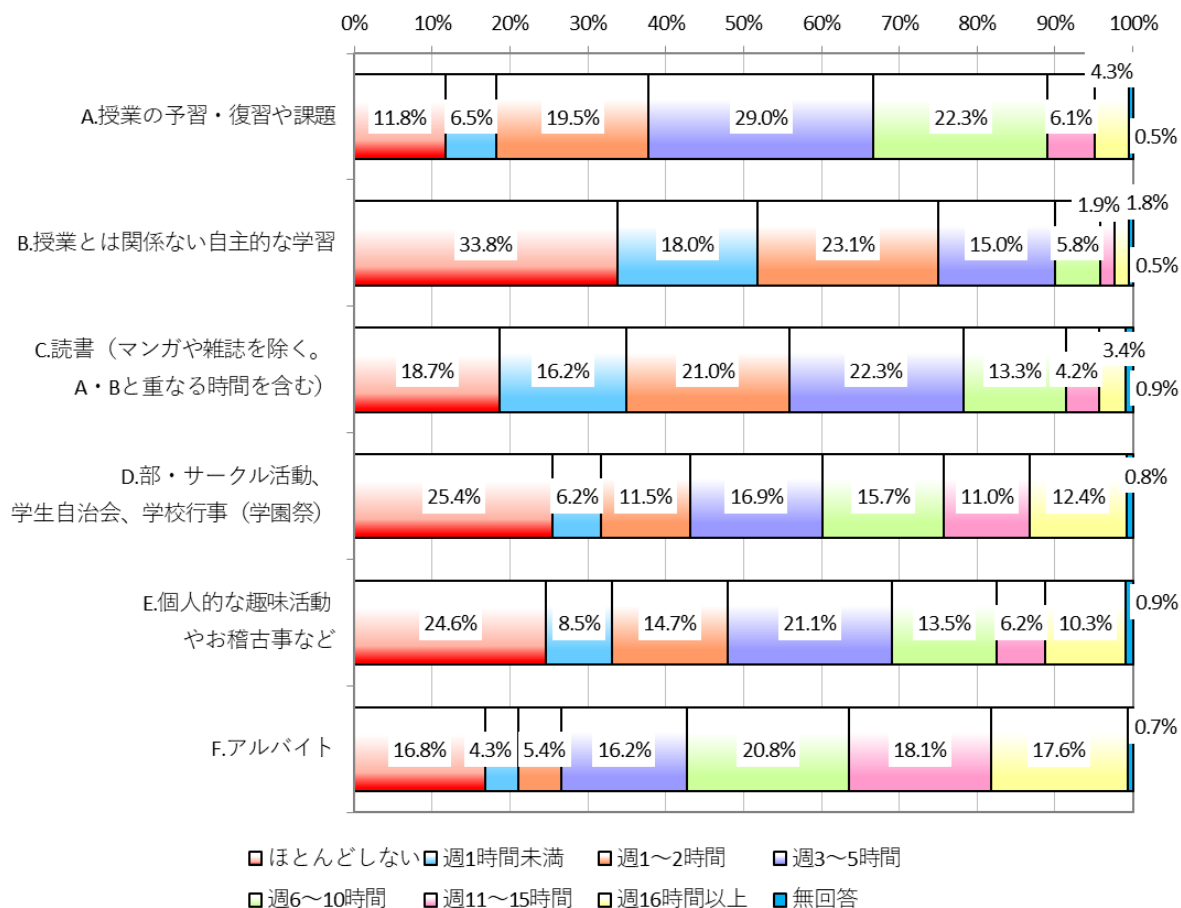


図 3-5 学部別 在学中 1 週間の時間の使い方（生命科学部：n=739）（問 8）

### 3-4 学部内での成績

在学中、学部内での成績についてきいたところ、薬学部では、「上位（上のほう+やや上）」と回答したのは、1～2年では33.8%、3～4年では38.0%と学年があがるにつれて少し割合が高くなっている（対象人数は限られるが、5～6年には約半数（47.7%）となっている）。

生命科学部では、1～2年、3～4年共に4割程度である。

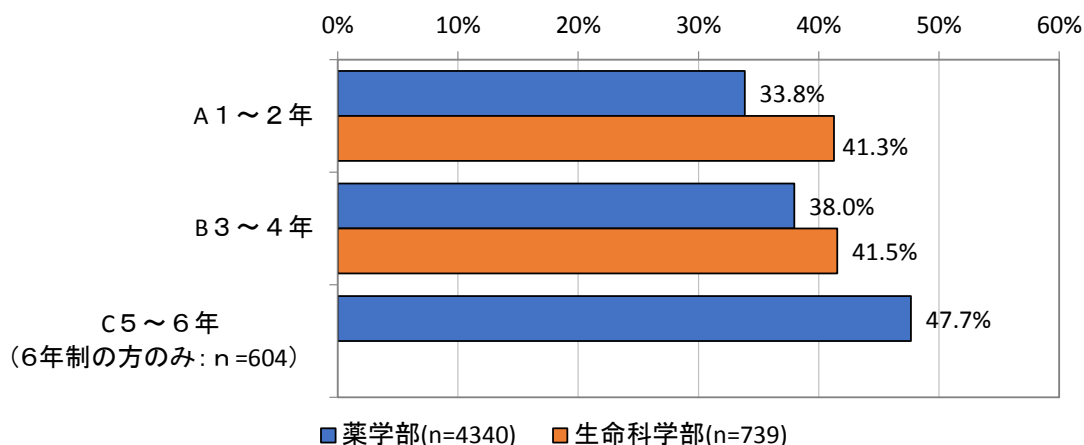


図 3-6 学部別 学部内での成績（問9） 上位（上のほう+やや上）の割合

### 3-5 留年の経験

在学中の留年経験については、両学部ともに9割以上が「経験がない」と回答した。

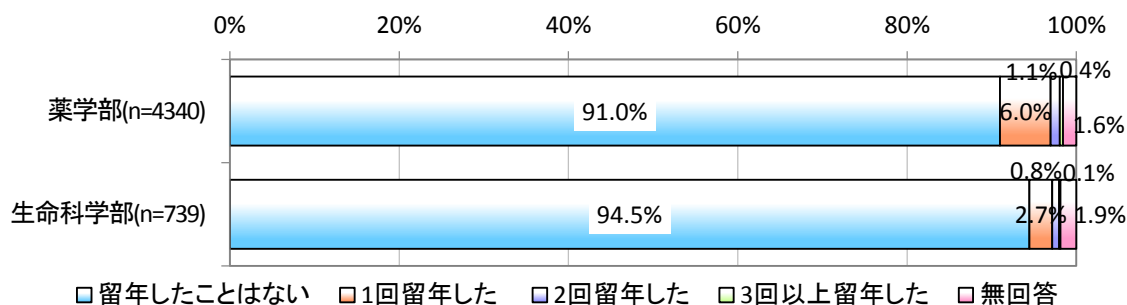


図 3-7 学部別 留年の経験（問10）



### 3-6 在学中の学習生活

在学中の学習生活についてきいたところ、いずれの学部でも「よい友人に巡り合えた（薬学部 93.4%生命科学部 92.6%）」にあてはまる（とてもあてはまる+ややあてはまる）と回答した割合は、9割を超えている。

全体の項目を通して薬学部より生命科学部の方があてはまる（とてもあてはまる+ややあてはまる）と回答した割合が高かった。特に、「学術的な書籍や論文を積極的に読んだ（薬学部 18.1%生命科学部 36.9%）」は生命科学部の方 20 ポイント近く割合が高い。

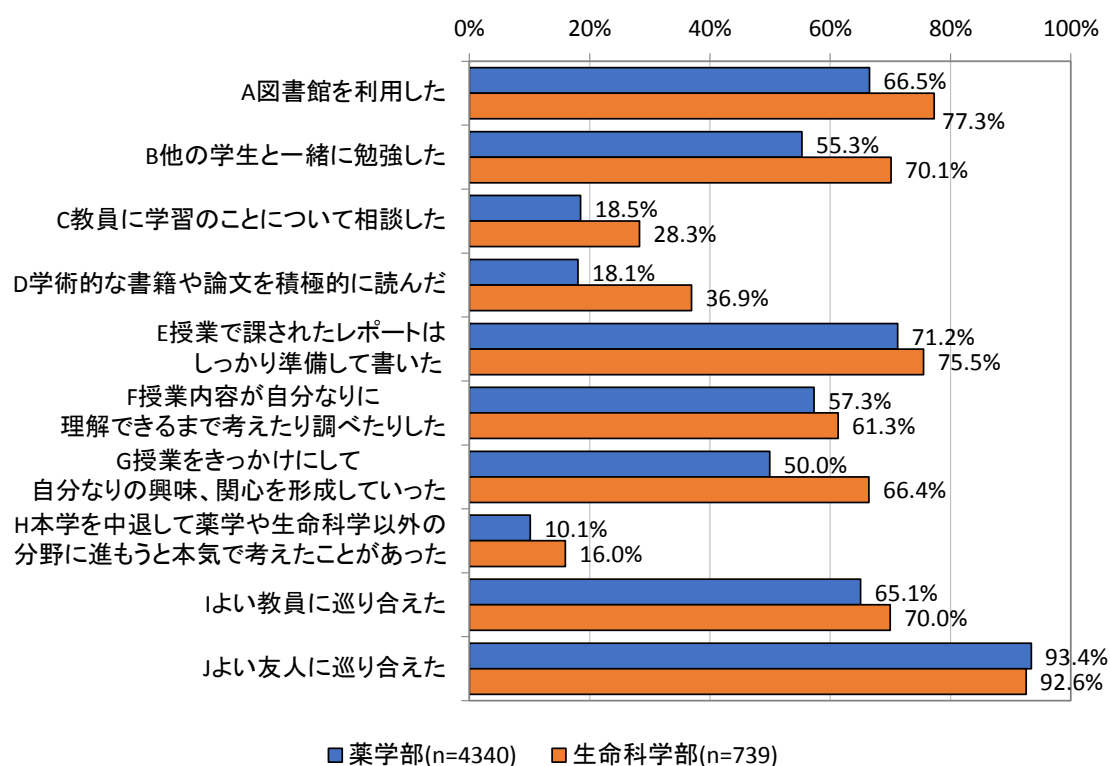


図 3-8 学部別 在学中の学習（問 1 1）

あてはまる（とてもあてはまる+ややあてはまる）の割合

### 3-7 卒業論文研究のコース選択

卒業論文研究のコース選択について、薬学部は「実験研究（Aコース）」が67.9%、「調査研究（Bコース）」が30.0%となっている（生命科学部は全員が実験研究（Aコース））。

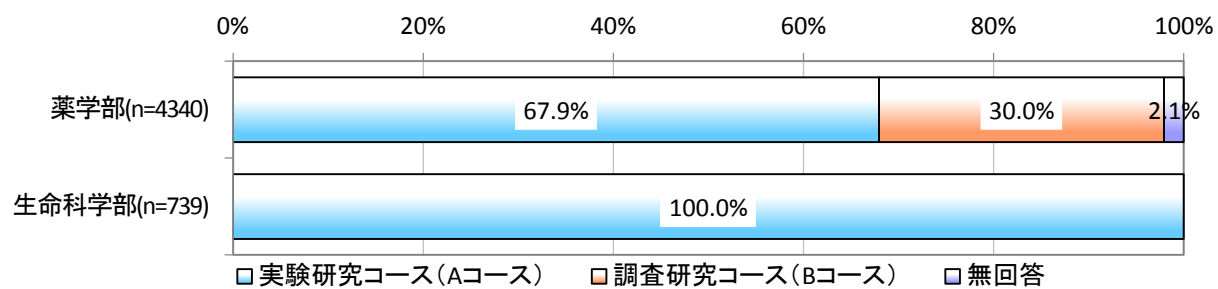


図 3-9 学部別 卒業論文研究のコース選択（問12）

### 3-8 卒業論文研究を振り返って

卒業論文研究についてきいたところ、両学部とも「専門分野の知識を深く理解するうえで有益だった」「困難なことを最後までやり遂げる重要性が実感できた」があてはまる（とてもあてはまる+ややあてはまる）と回答した割合が高かった。

また、全項目において薬学部より生命科学部の方があてはまると回答した割合が高かった。特に「自分の主張を分かりやすく伝える方法を身につけることができた（薬学部 43.8% 生命科学部 66.7%）」「学問の奥深さに魅力を感じた（薬学部 54.1% 生命科学部 78.1%）」にあてはまると回答した割合は、生命科学部は薬学部と比較して 20 ポイント以上高い。

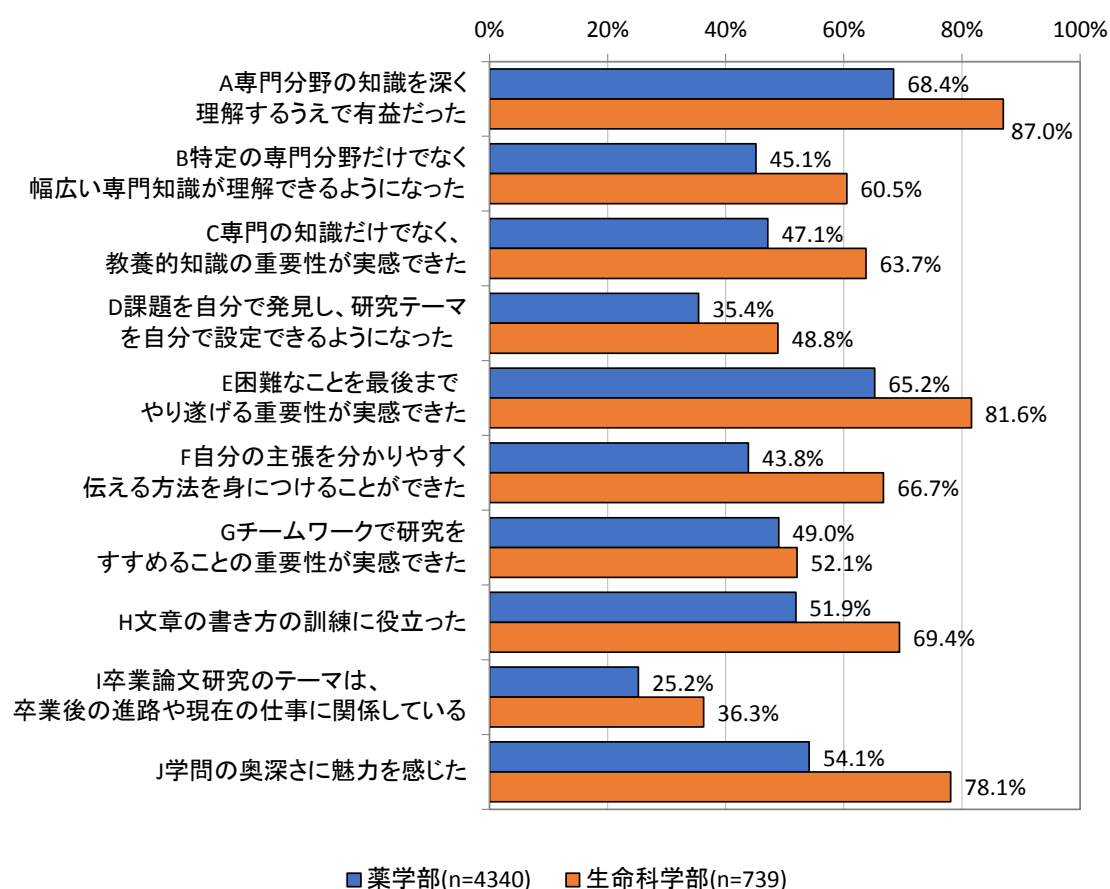
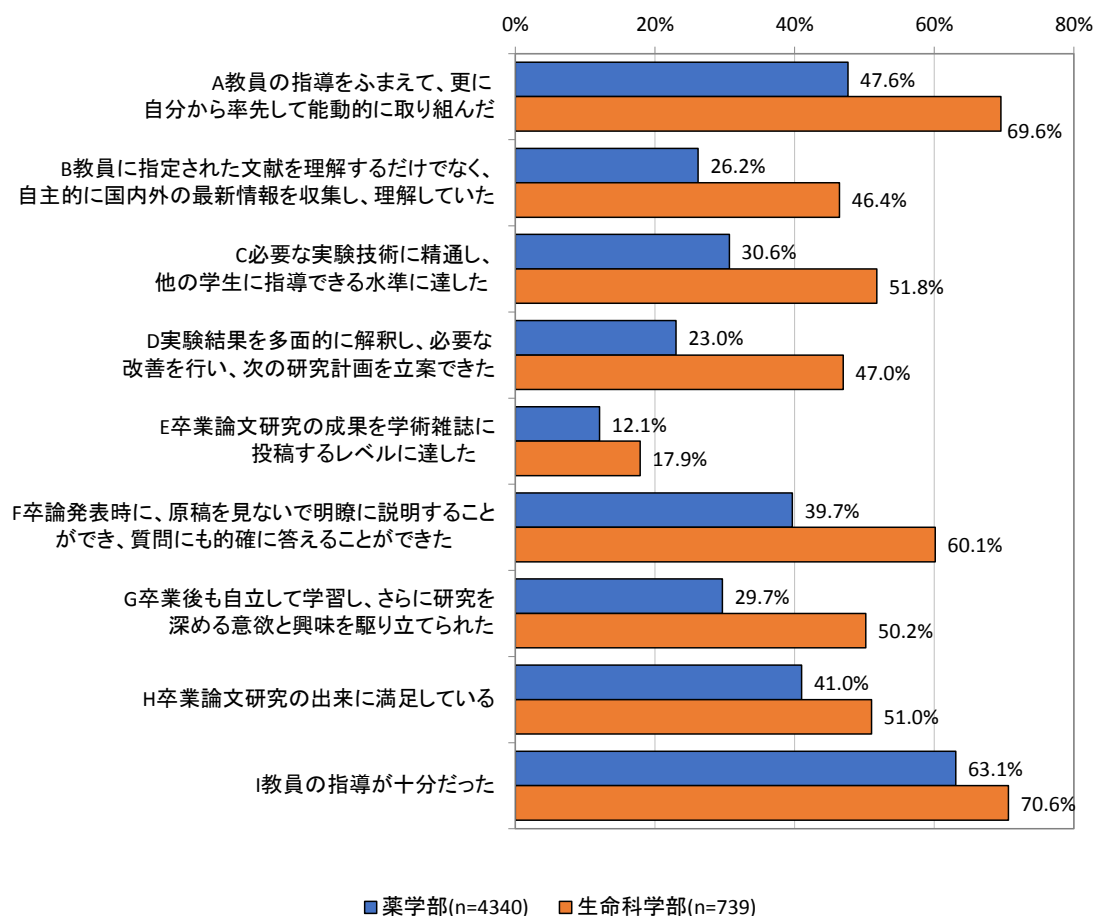


図 3-10 学部別 卒業論文研究を振り返って（問 13）  
あてはまる（とてもあてはまる+ややあてはまる）割合

### 3-9 卒業論文研究の実施内容・成果

卒業論文研究の実施内容・成果についての自己評価をみると、全項目において薬学部より生命科学部の方があてはまる（とてもあてはまる+ややあてはまる）と回答した割合が高い。中でも「実験結果を多面的に解釈し、必要な改善を行い、次の研究計画を立案できた」にあてはまると回答した割合は薬学部と比較すると25ポイント程度高かった。



※「必要な実験技術に精通し、他の学生に指導できる水準に達した」「卒論発表時に、原稿を見ないで明瞭に説明することができ、質問にも的確に答えることができた」は、経験しなかったものは母数から除いている。

図 3-11 学部別 卒業論文研究の実施内容・成果についての自己評価（問14）

あてはまる（とてもあてはまる+ややあてはまる）割合

### 3-10 卒業論文研究期間の研究室に通った頻度

卒業論文研究の取り組む必要のある期間に、研究室にどの程度通ったかきいたところ、薬学部は約半数（47.1%）が、生命科学部は6割以上（64.1%）が「ほとんど毎日」通っていたと回答した。

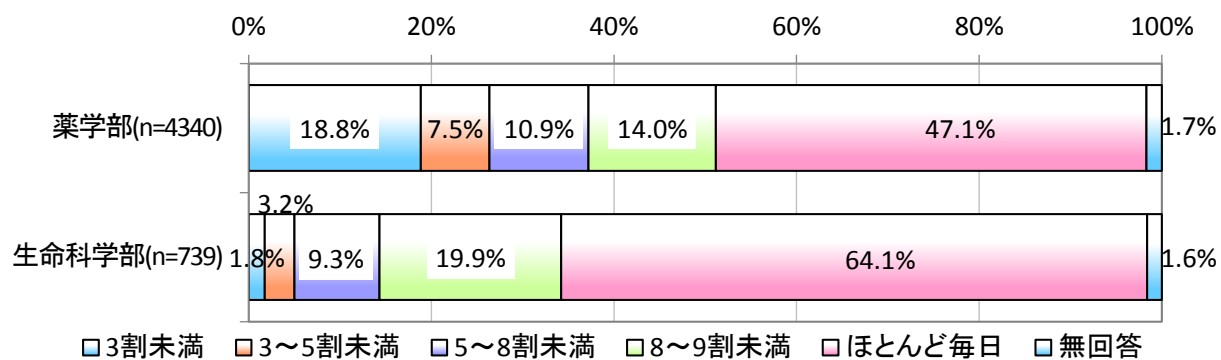


図 3-12 学部別 卒業論文研究期間の研究室に通った頻度（問15）

### 3-11 学校教育・学生生活の満足度

学部在学中の教育・学生生活を振り返っての満足度をみると、薬学部・生命科学部共に「友人関係」「学部での学生生活全般」「基礎実習・専門科目の実習内容」が高い結果となった。

一方で「人文社会系の一般教育科目の講義内容（総合科目）」「教員と話をする機会」の2項目について、他項目に比べて満足度が低い結果となった。学部による差は「卒業論文研究」において薬学部の満足度が63.8%であったのに対し生命科学部は84.8%と高い満足度で学部による差は20ポイント以上あった。

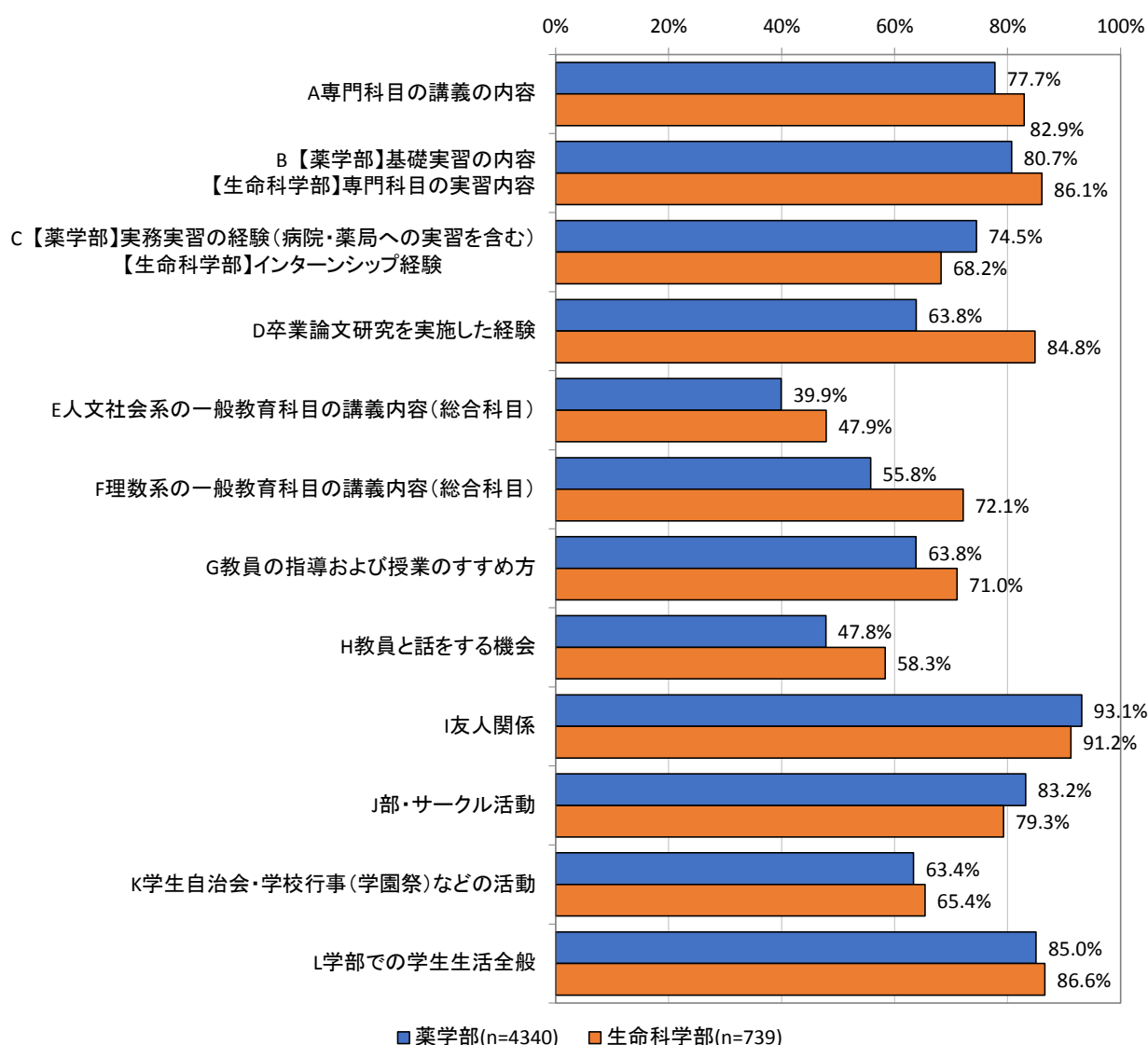


図 3-13 学部別 学校教育・学生生活の満足度 (問 16)  
足している (とても満足している+やや満足している) 割合

### 3-12 卒業後の進路

学部卒業後の進路についてきいたところ、薬学部では、8割が「就職」であり、「大学院修士課程への進学」が1割程度となっている。

生命科学部は「就職」と「東京薬科大大学院修士課程への進学」がそれぞれ3割以上であり、「他大学大学院修士課程に進学した」者も2割程であった。

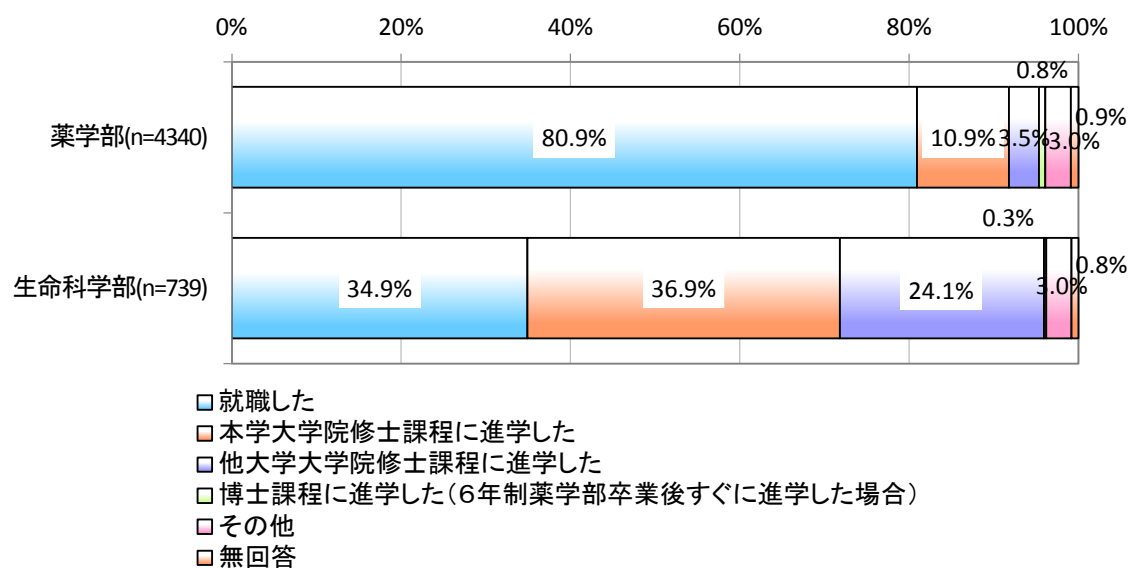


図 3-14 学部別 卒業後の進路 (問 17)

## 第4章 修士課程の状況

### 4-1 大学院修士課程へ進学した理由

大学卒業後、大学院修士課程へ進学した理由をきいたところ「学部時代よりも高度な専門知識を身につけたかったから（薬学部 93.8%生命科学部 92.5%）」の回答が両学部とも9割を超え高い。

さらに、将来を見据えた「研究者になりたいかったから」「就職後の職業キャリアを有利にするため」「もう少し勉強してから社会に出たかったから」といった項目も両学部ともに7割以上と高い割合となっている。

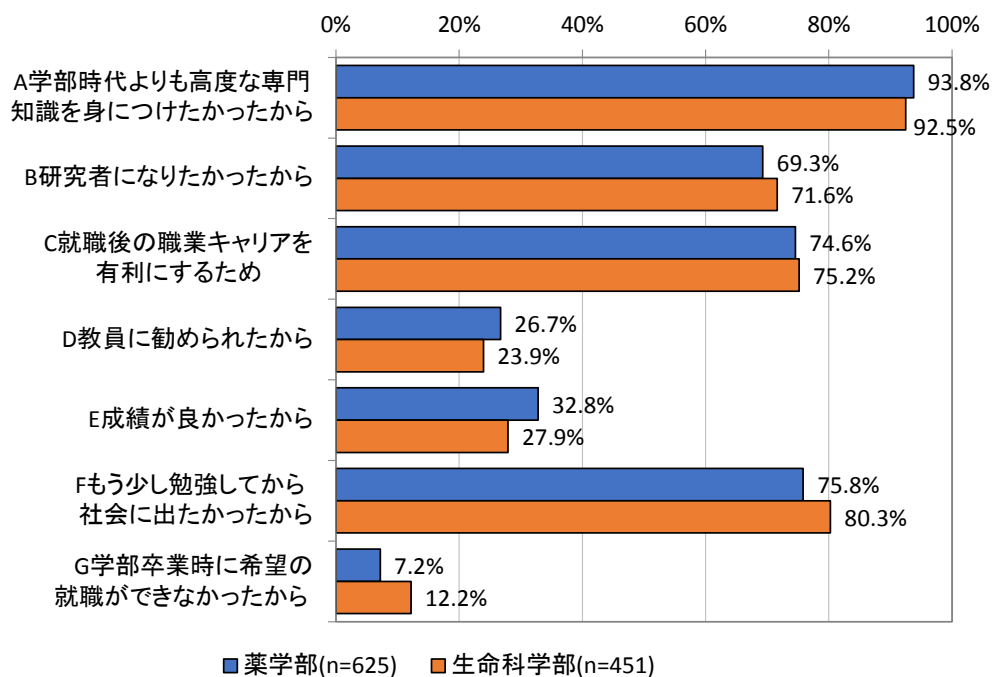


図 4-1 学部別 大学院修士課程へ進学した理由（問18）



#### 4-2 大学院修士課程時代の教育・学生生活の満足度

大学院修士課程時代の教育や学生生活についての満足度について、いずれの項目も両学部共に「あてはまる（とてもあてはまる+ややあてはまる）」の回答割合が6割から9割と高い。

薬学部と生命科学部を比較すると、いずれの項目も薬学部の方が生命科学部より高い。

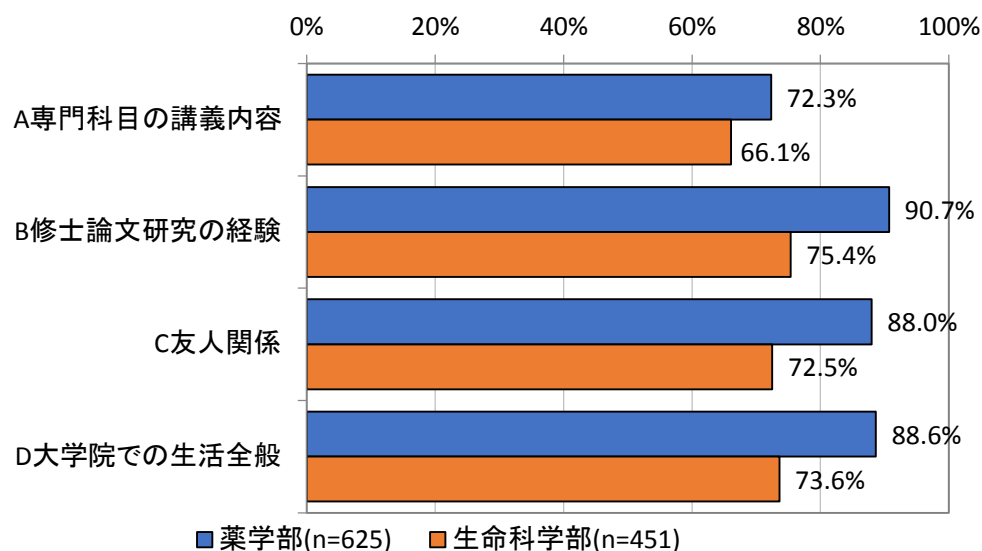


図 4-2 学部別 大学院修士課程時代の教育・学生生活の満足度（問19）  
あてはまる（とてもあてはまる+ややあてはまる）の割合

#### 4-3 修士論文研究の実施内容・成果についての自己評価

修士論文研究の実施内容・成果についての経験の自己評価についてきいたところ、全ての項目において生命科学部より薬学部の方があてはまる（とてもあてはまる+ややあてはまる）と回答した割合が高い。

特に「教員の指導をふまえて、更に自分から率先して能動的に取り組んだ（85.3%）」「教員の指導が十分だった（80.2%）」が8割を超え割合が高い。

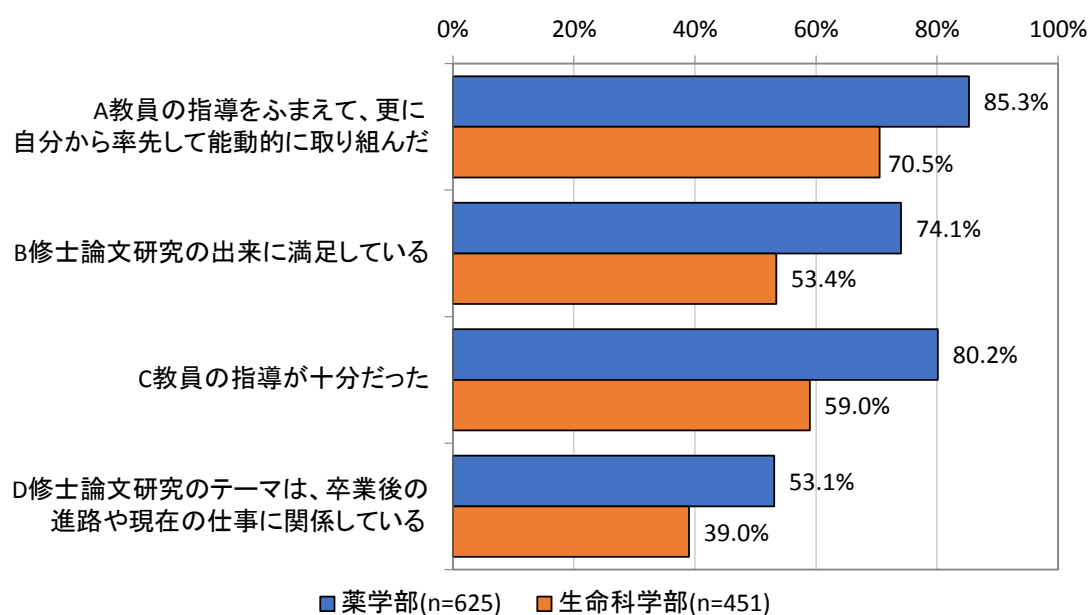


図 4-3 学部別 修士論文研究の実施内容・成果についての自己評価（問20）

あてはまる（とてもあてはまる+ややあてはまる）割合

## 第5章 職業・キャリアについて

### 5-1 最初に就いた仕事について

#### 5-1-1 業種

最初に就いた仕事の業種をみると、薬学部は生命科学部に比べ「製薬」「病院・診療所」「(調剤)薬局」の割合が高い。生命科学部は「治験業務受託機関(CRO,SMO)」の割合が高い。

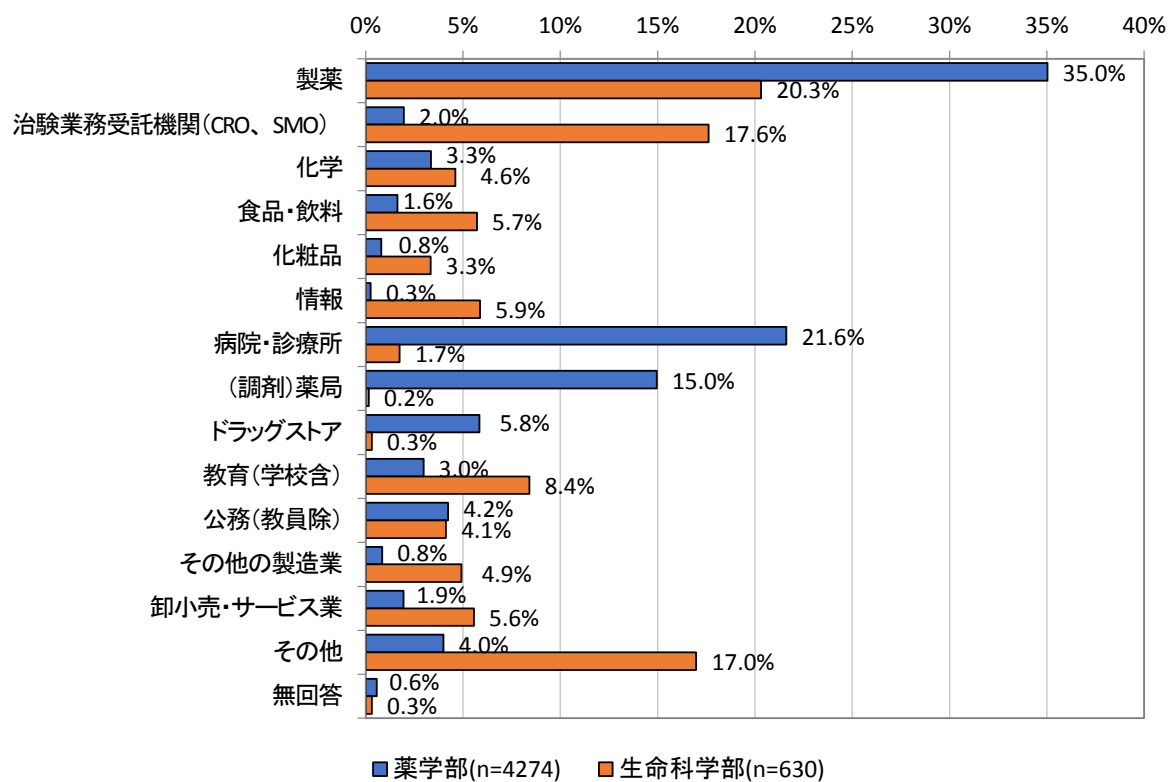


図 5-1 学部別 業種 (問 2 1)

### 5-1-2 職種

最初に就いた仕事の職種をみると、薬学部では「薬剤師職」の割合が41.2%と最も高く、次いで「研究(14.7%)」「MR(12.2%)」の割合が高い。

生命科学部では、「研究(20.5%)」「臨床開発(モニター・データマネジメント・治験コーディネーター等)(17.8%)」の割合が高い。

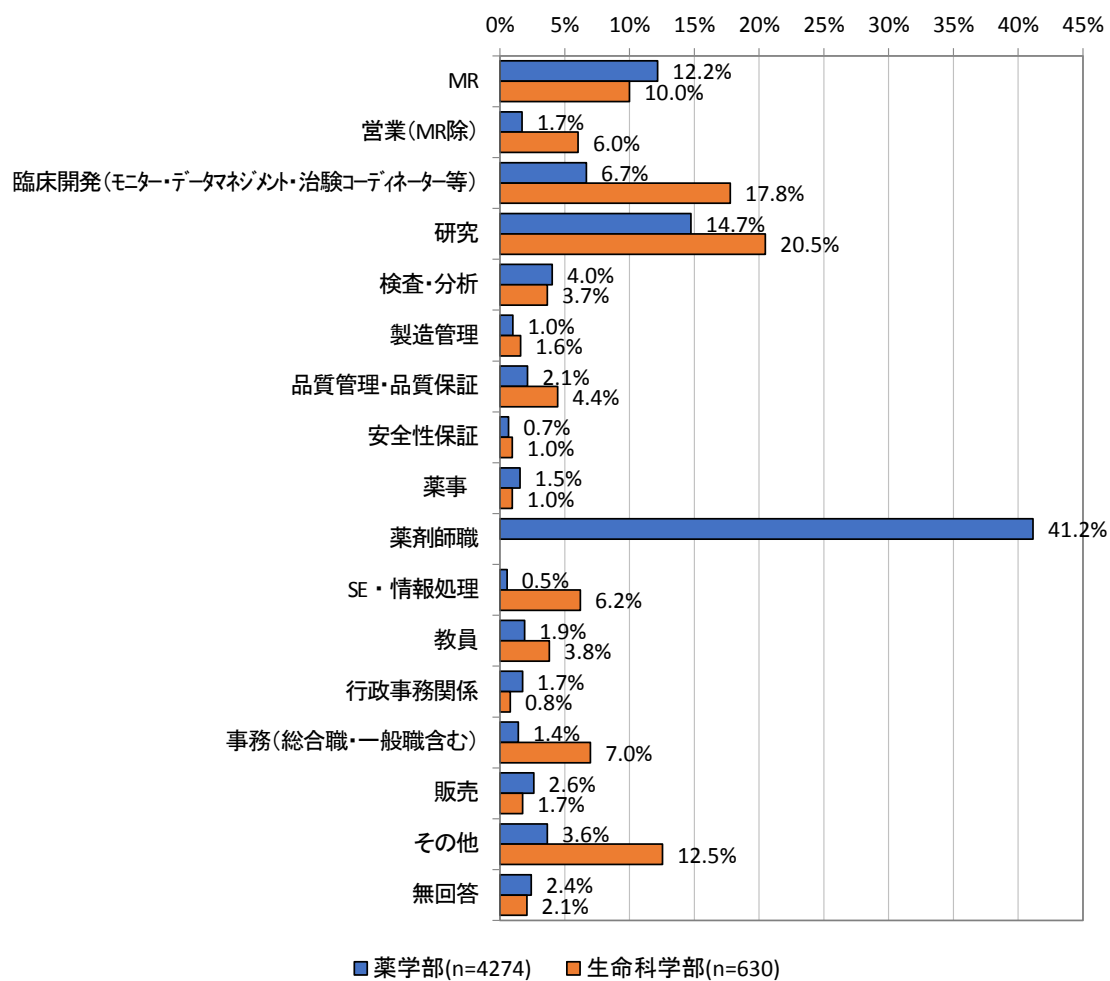


図 5-2 学部別 職種 (問 2 1)

### 5-1-3 雇用形態

最初に就いた仕事の雇用形態をみると、薬学部では9割以上が、生命科学部では9割弱が「正規雇用」となっている。

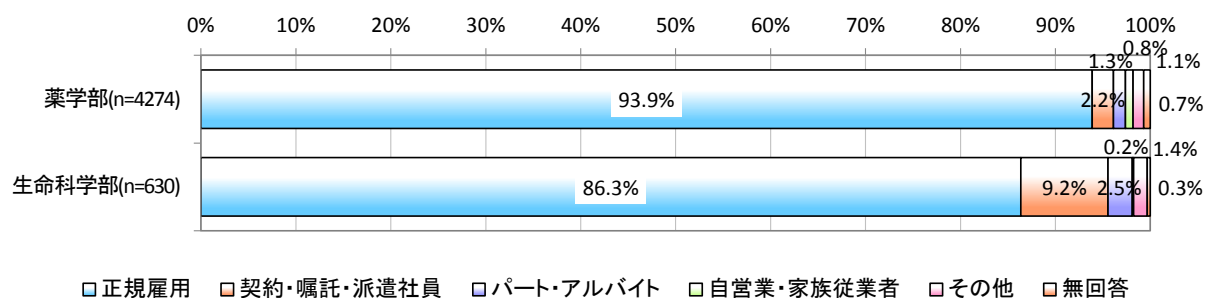


図 5-3 学部別 雇用形態 (問 2 1)

### 5-1-4 企業規模 (常勤の従業者数)

最初に就いた仕事の企業規模をみると、薬学部・生命科学部共に4割以上が「1000人以上」の企業に就職している。

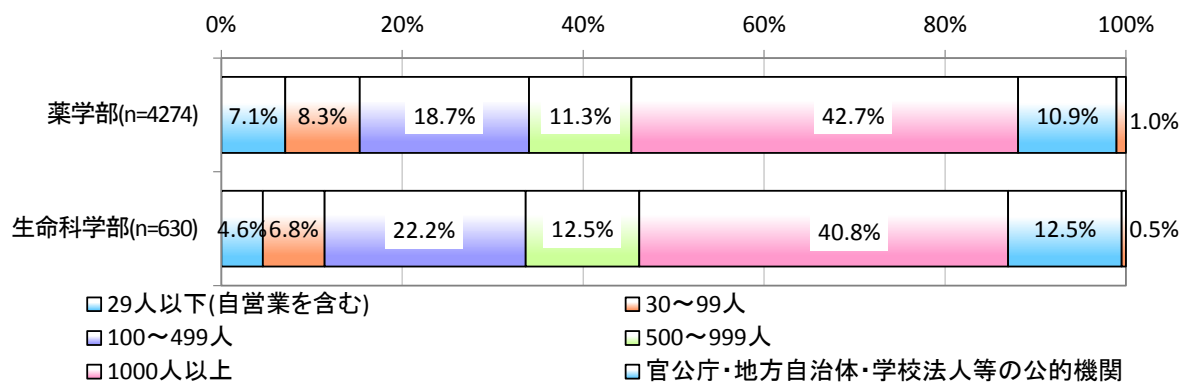


図 5-4 学部別 企業規模 (問 2 1)

### 5-1-5 希望の企業等への就職率

最初に就いた企業等が希望通りかどうかをみると、生命科学部に比べ薬学部の方が、「初めから就職したいと思っていた企業」に就職した割合が高い。

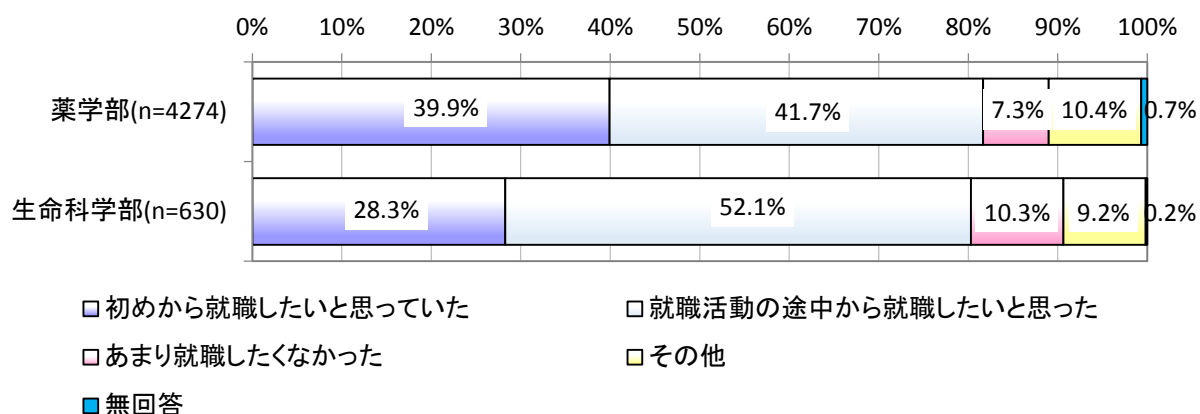


図 5-5 学部別 希望の企業等への就職率 (問 2 1)

### 5-1-6 仕事の内容と大学の専門との関係

最初に就いた仕事の内容と大学の専門との関係をみると、生命科学部に比べ薬学部の方が、「専攻した分野と大いに関連がある」割合が高い。

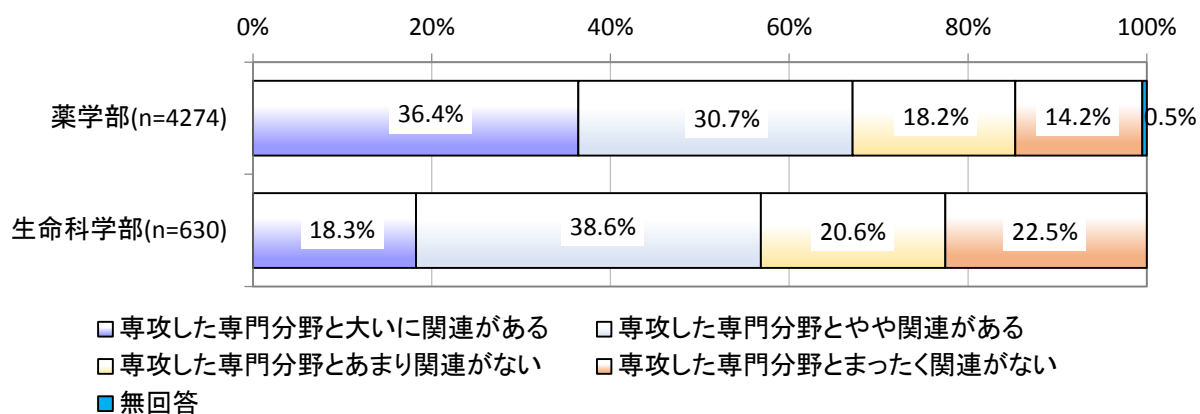


図 5-6 学部別 仕事の内容と大学の専門との関係 (問 2 1)

### 5-1-7 配属された職場・職務について

最初に就いた職場・職務の興味の度合いをみると、薬学部・生命科学部共に、「興味のある職場・職務だった（最も興味のある+それなりに興味のある）」割合が 9 割近くとなっている。

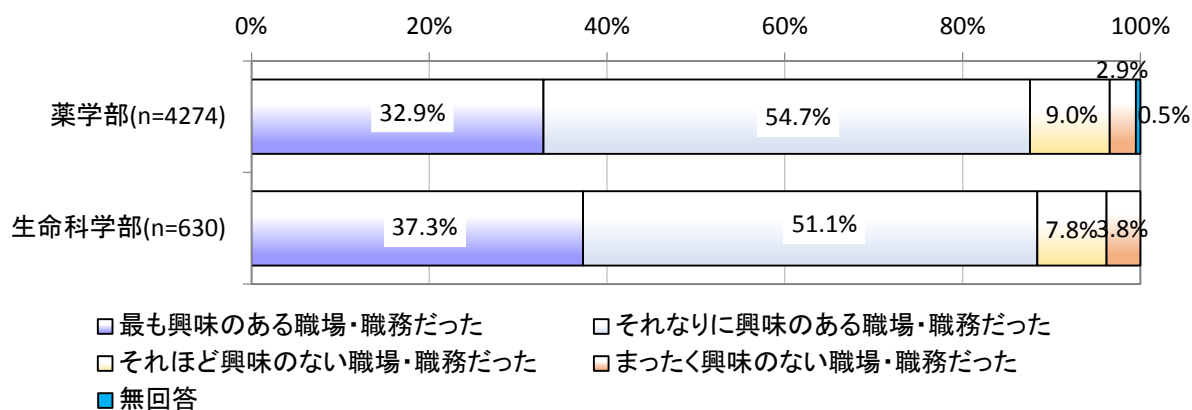


図 5-7 学部別 配属された職場・職務について（問 2 1）

## 5-2 転職経験

これまでの転職経験についてみると、薬学部は「転職したことはない」が 37.6%、「1回」が 24.7%となっている。

一方、生命科学部では「転職したことはない」が 66.2%となっている。

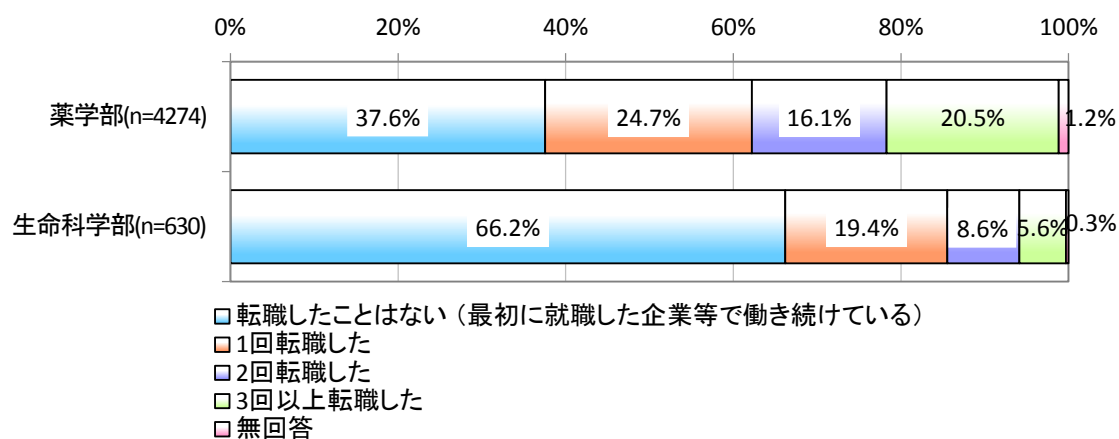


図 5-8 学部別 転職経験 (問 2 2)

## 5-3 海外勤務経験

これまで海外での勤務経験について、両学部ともに 9 割以上が「海外勤務の経験はない」と回答した。

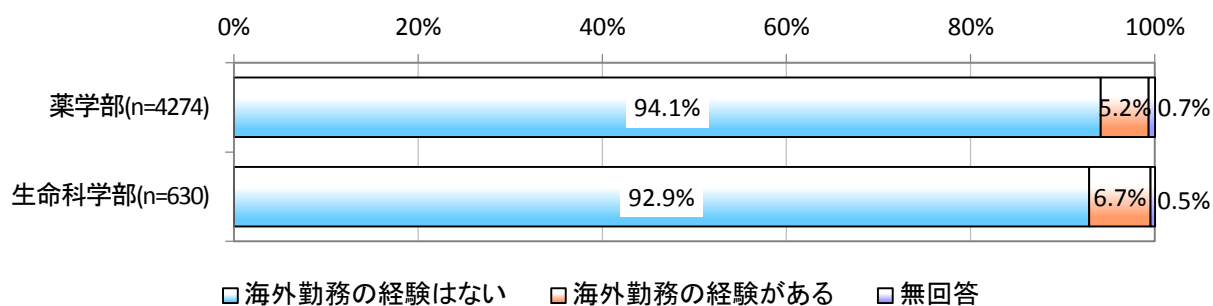


図 5-9 学部別 海外勤務経験 (問 2 3)



#### 5-4 現在の就業状況・退職理由

現在の就業状況について、薬学部 88.8%、生命科学部 94.3%が「働いている」と回答した。

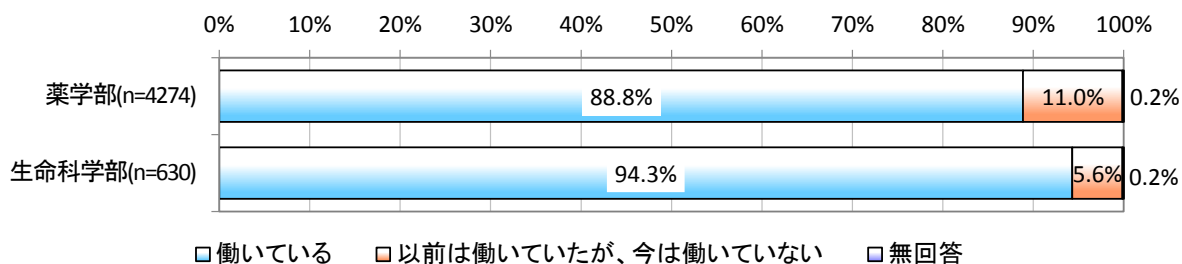


図 5-10 学部別 現在の就業状況 (問 2 4)

「働いていない」と回答した中で退職理由は、薬学部は「結婚・出産」が 32.3%、「定年退職」が 24.3%であった。

生命科学部は、今回の調査で定年退職者はおらず「結婚・出産」が 68.6%であった。

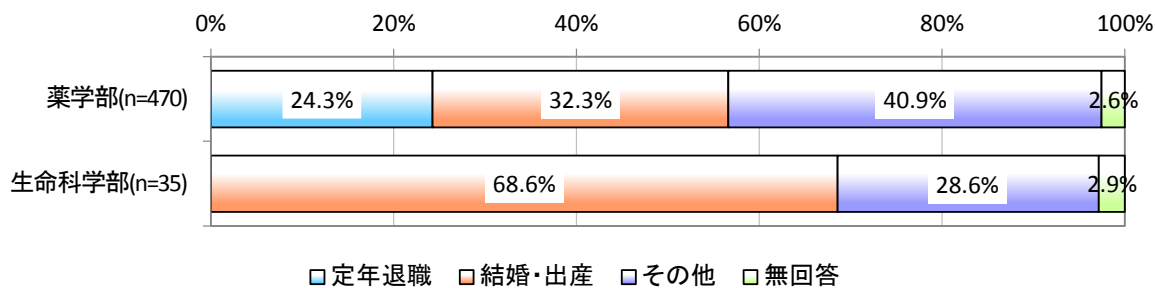


図 5-11 学部別 退職理由 (問 2 4)

## 5-5 現在の仕事について・就業経験

### 5-5-1 業種

現在の業種をみると、薬学部は「(調剤)薬局」の割合が42.8%と最も高い。生命科学部は「製薬」「治験業務受託機関(CRO,SMO)」の割合が高い。

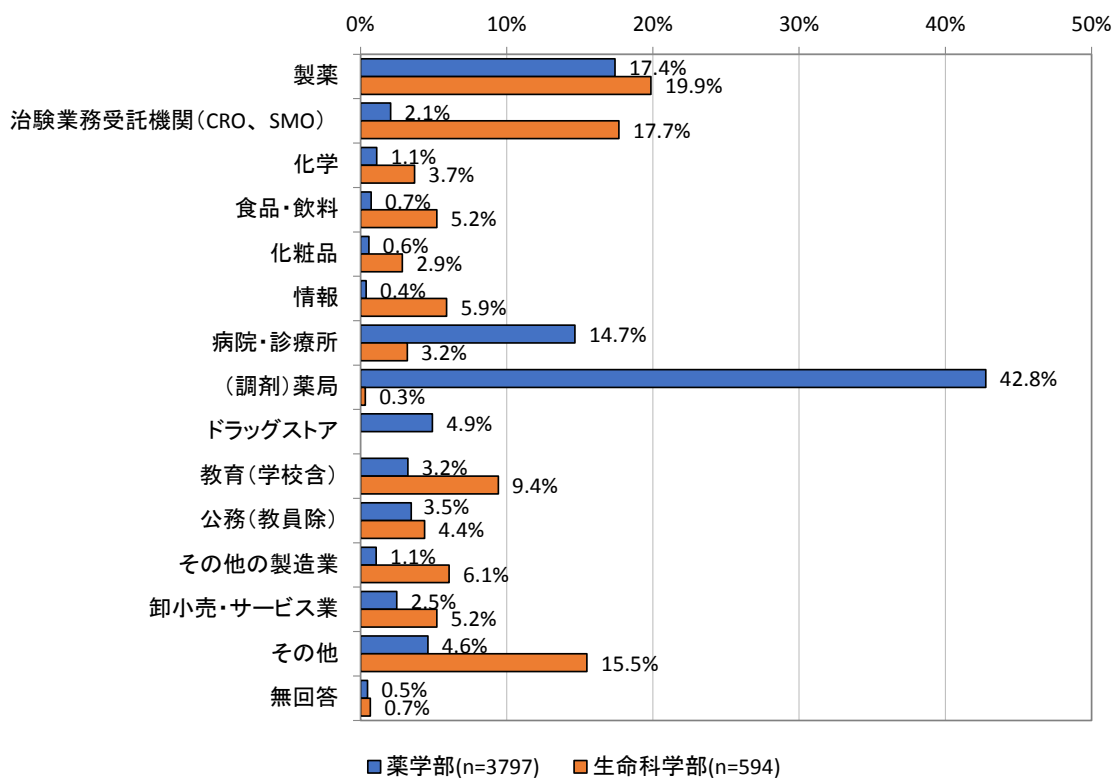


図 5-12 現在の業種 (問 2 5)

### 5-5-2 職種

現在の職種をみると、薬学部は「薬剤師職」の割合が61.3%と最も高い。生命科学部は「臨床開発（モニター・データマネジメント・治験コーディネーター等）」「研究」の割合が高い。

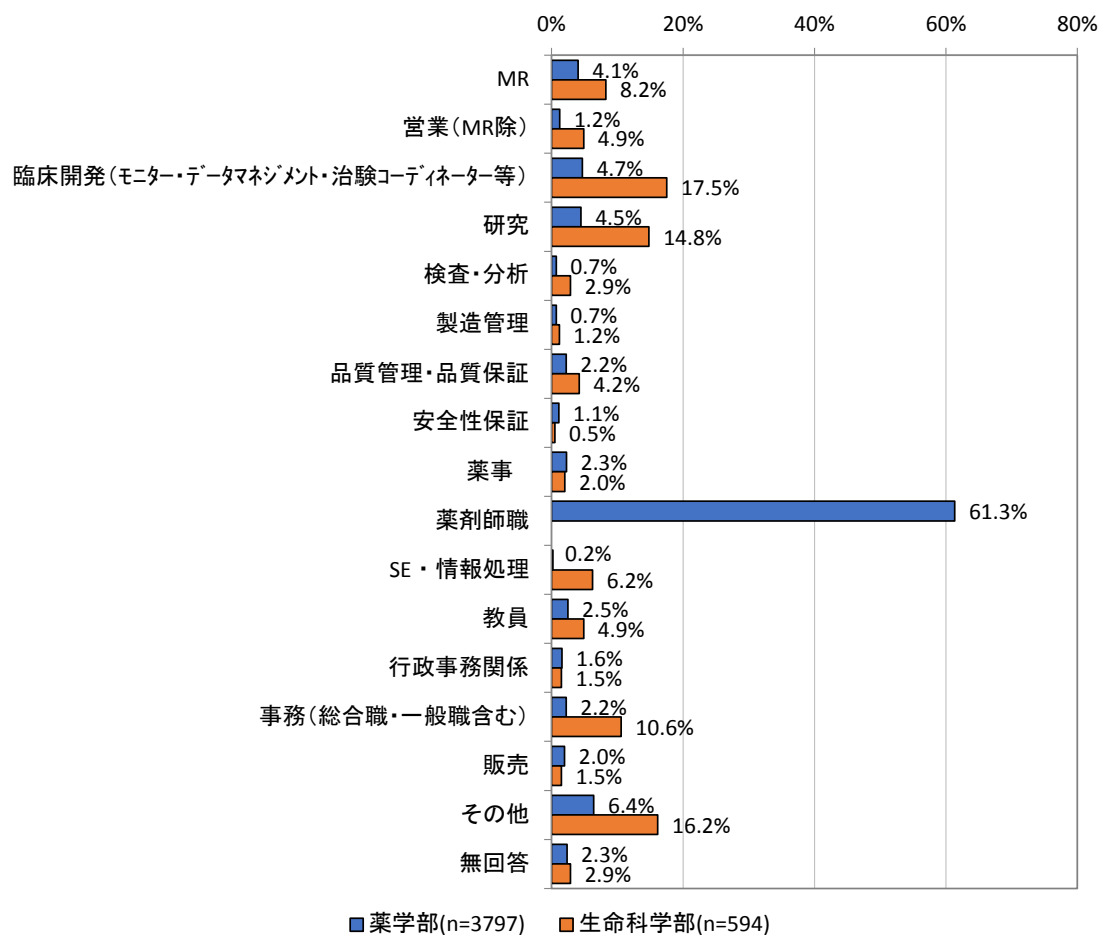


図 5-13 職種 (問 2 5)

### 5-5-3 企業規模 (常勤の従業者数)

現在の職種をみると、薬学部は「1000人以上 (31.4%)」と「29人以下 (自営業を含む) (26.5%)」の割合が高く、生命科学部は「1000人以上 (43.1%)」の割合が高い。

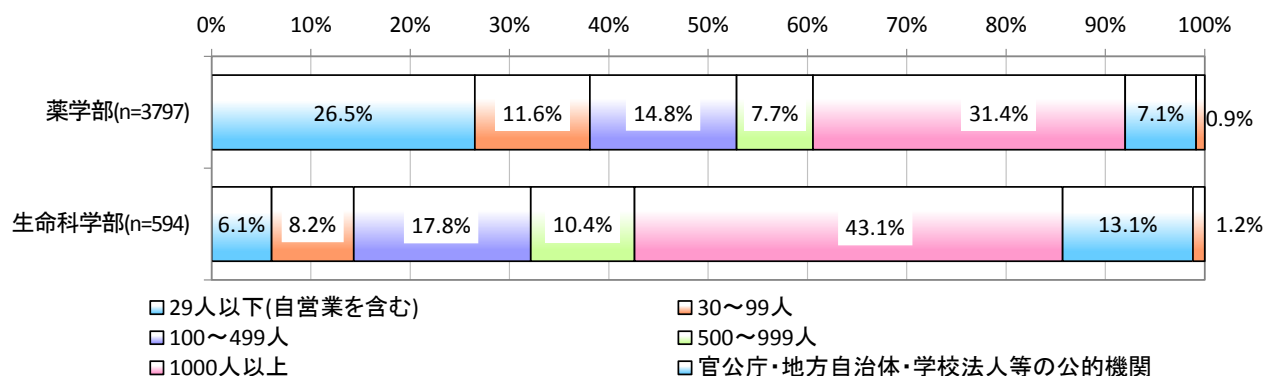


図 5-14 企業規模 (問 2 5)

### 5-5-4 職位・雇用形態

現在の職位・雇用形態をみると、薬学部は「一般社員 (34.1%)」「パート・アルバイト (17.2%)」の割合が高く、生命科学部は「一般社員 (64.8%)」の割合が高い。

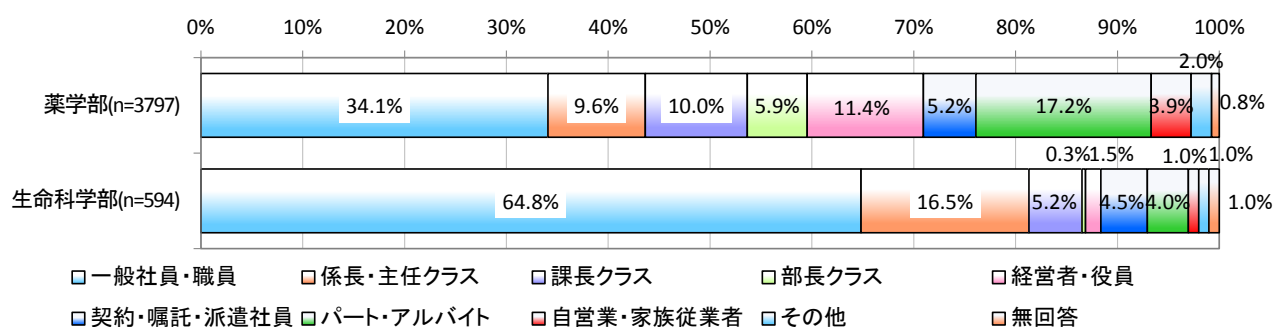


図 5-15 職位・雇用形態 (問 2 5)

### 5-5-5 1週間の平均的な勤務時間（残業を含む）

1週間の平均的な勤務時間をみると、薬学部・生命科学部共に、「35～44時間」「45～59時間」の割合が高い。

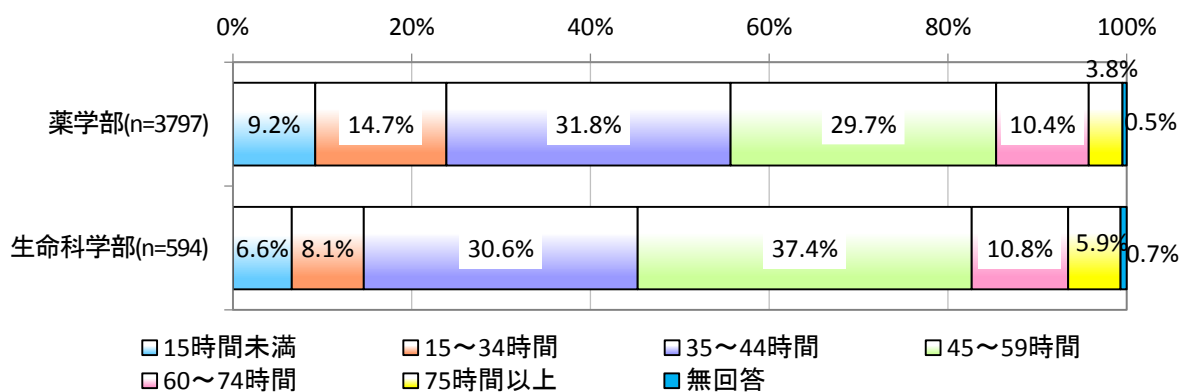


図 5-16 1週間の平均的な勤務時間（問 2 5）

### 5-5-6 現在の仕事の内容と大学の専門との関係

現在の仕事の内容と大学の専門との関係をみると、薬学部では「専攻した専門分野と大いに関連がある」割合が 42.1%である一方、生命科学部では 14.8%に留まっている。

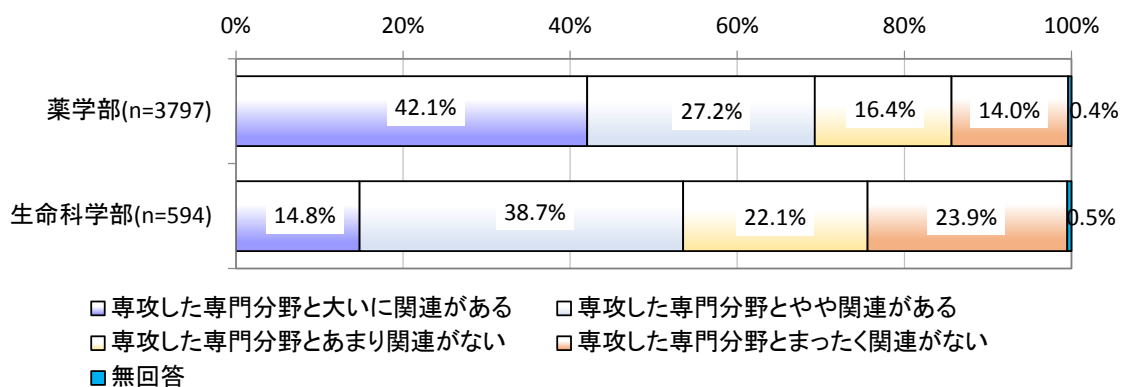


図 5-17 現在の仕事の内容と大学（最終学歴）の専門との関係（問 2 5）

### 5-5-7 現在の職場・職務について

現在の職場・職務の興味の度合いをみると、薬学部・生命科学部共に、「興味のある職場・職務だった（最も興味のある+それなりに興味のある）」割合が9割以上となっている。

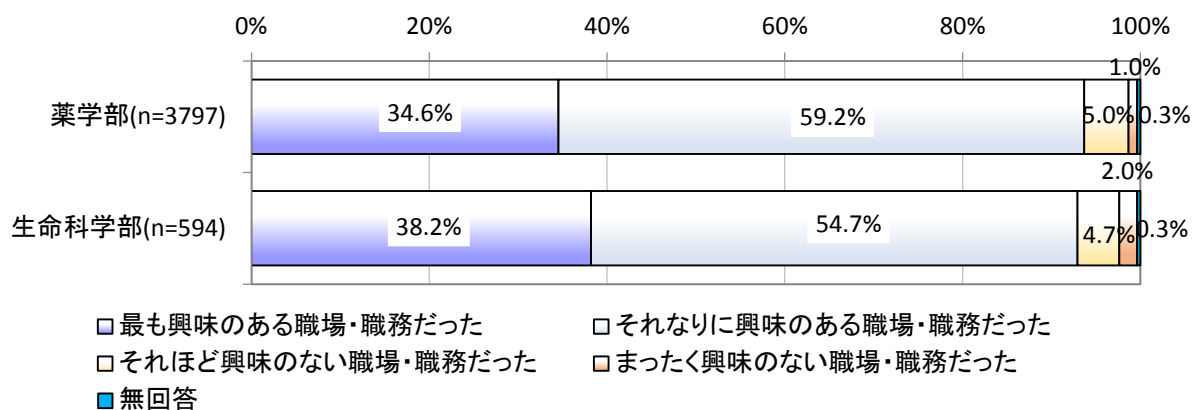


図 5-18 現在の職場・職務について（問 2 5）

### 5-6 仕事における友人関係

仕事上で難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいるかをきいたところ、両学部ともに「1~2人」「3~5人」がそれぞれ3割程度であった。

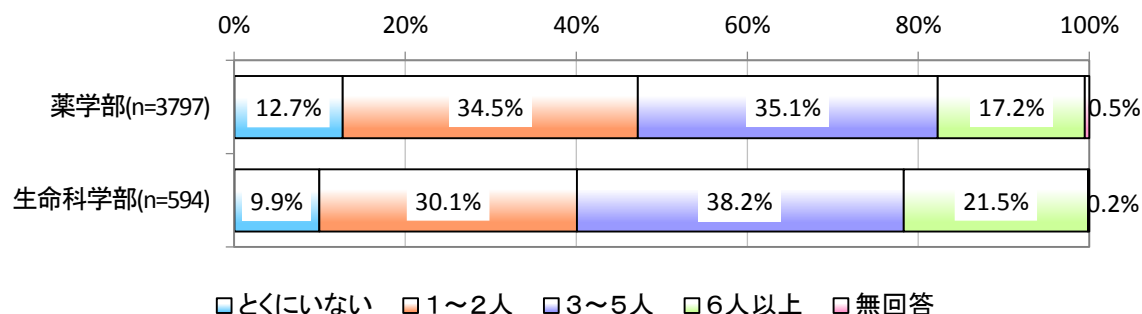


図 5-19 学部別 友人関係 (問 2 6)

どのような関係の友進であるかの質問に対して、両学部共に「職場で知り合った友人」が8割近くと最も割合が高い。次いで、「薬科大在学中からの友人」が6割近くとなっている。

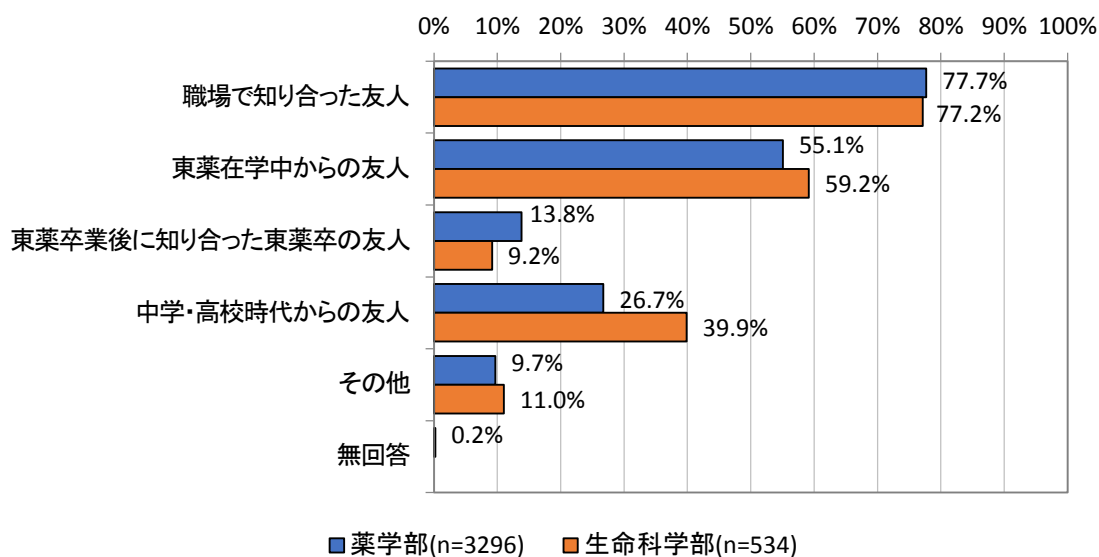


図 5-20 学部別 友人の種類 (問 2 6)

### 5-7 現在の仕事・将来のキャリアのための活動

現在の仕事や将来のキャリアのために、1か月あたりどれくらいの時間を学習に費やしているかきいたところ、「職場での勉強会・研修会」「その他の自己学習」については、両学部共に「月1～5時間（月1～2時間＋月3～5時間）」の回答が全体の5割程であった。

「職場以外での勉強会・研修会」について生命科学部は6割以上が「していない」と答えた一方、薬学部では4割に留まっており、半数以上は月に1時間以上学習している。

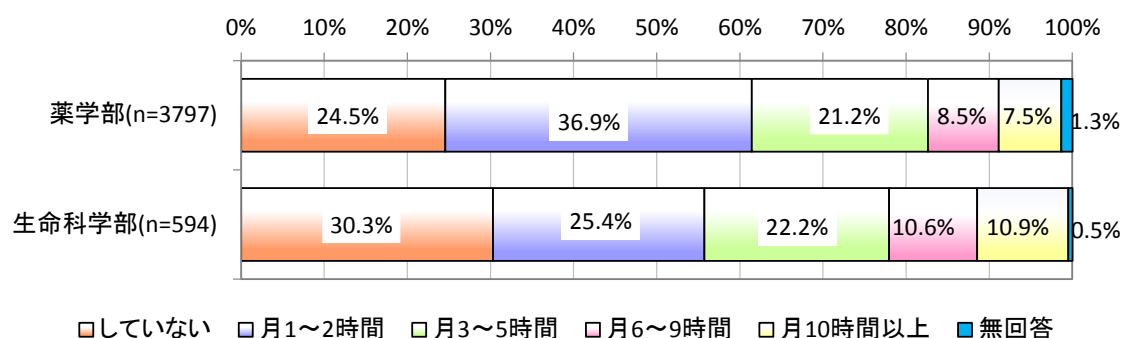


図 5-21 学部別 現在の仕事・将来のキャリアのための活動（職場での勉強会・研修会）（問27）

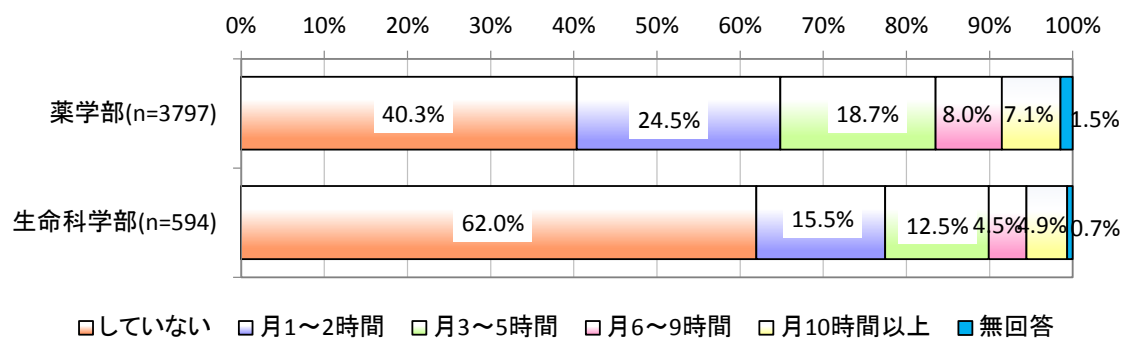


図 5-22 学部別 現在の仕事・将来のキャリアのための活動（職場以外での勉強会・研修会（英会話などの学校を含む））（問27）



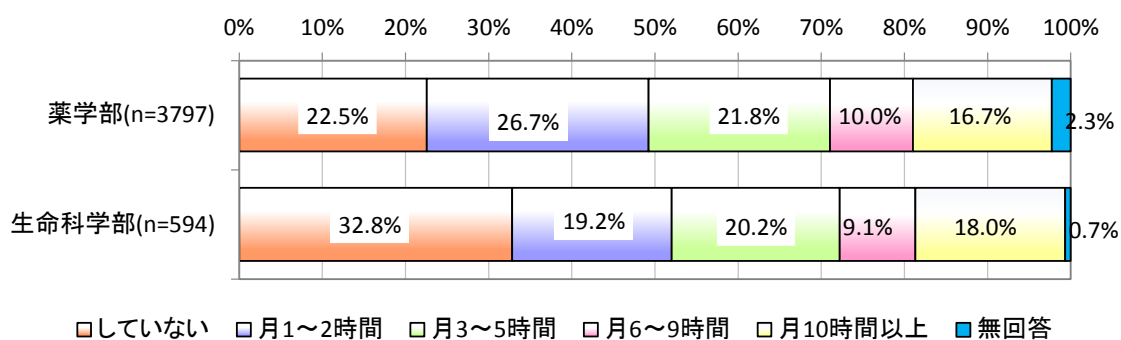


図 5-23 学部別 現在の仕事・将来のキャリアのための活動（その他の自己学習）  
（問 27）

### 5-8 読書

読書（マンガや雑誌を除く）に1週間あたりどれくらいの時間を費やしているかきいたところ、「ほとんどしない」割合は、薬学部で20.8%、生命科学部で29.8%であった。

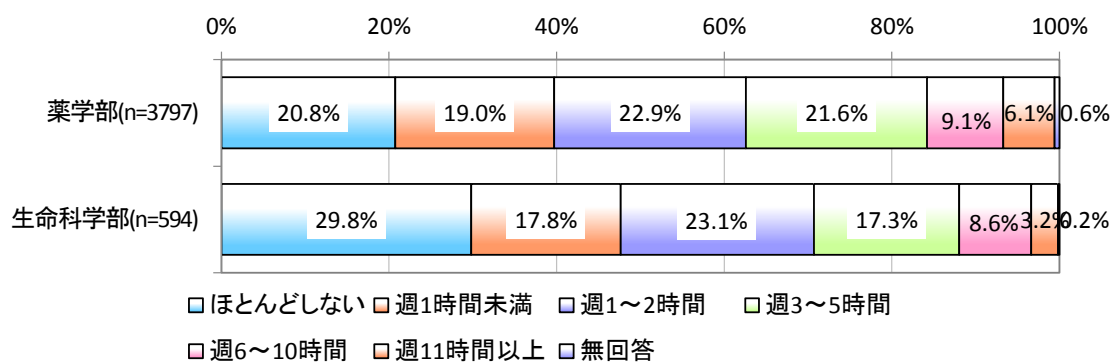


図 5-24 学部別 読書率（問 28）

### 5-9 研修会・読書などでの学習状況

研修会や読書などでどのような内容の学習を行っているかについては、「現在の仕事に直結する専門知識」が薬学部（75.8%）生命科学部（61.4%）共に一番割合が高い。

「語学力」については、生命科学部が28.5%と、薬学部（18.2%）に比べ10ポイント程度高い。

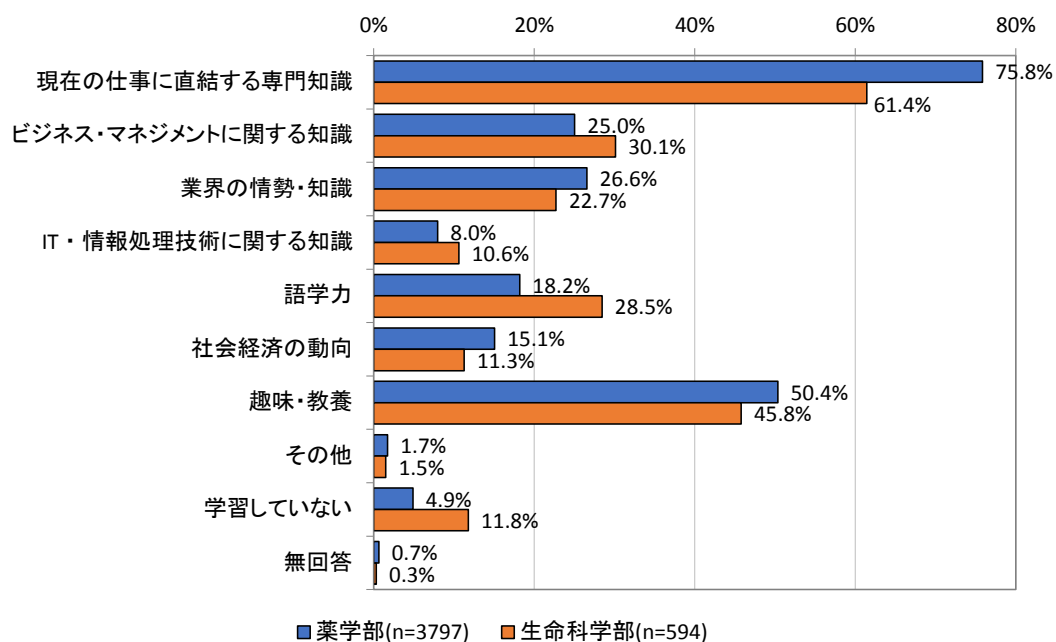


図 5-25 学部別 研修会・読書などでの学習状況（複数回答）（問29）

## 5-10 資格

取得した資格についてきいたところ、薬学部では、「薬剤師」の資格を 98.2%とほとんど全員が取得しており、「専門・認定薬剤師」についても四分の一程度が取得している。

生命科学部は、「資格をもっていない」の割合が 52.2%と最も高く、次いで「教員」が 16.8%となっている。

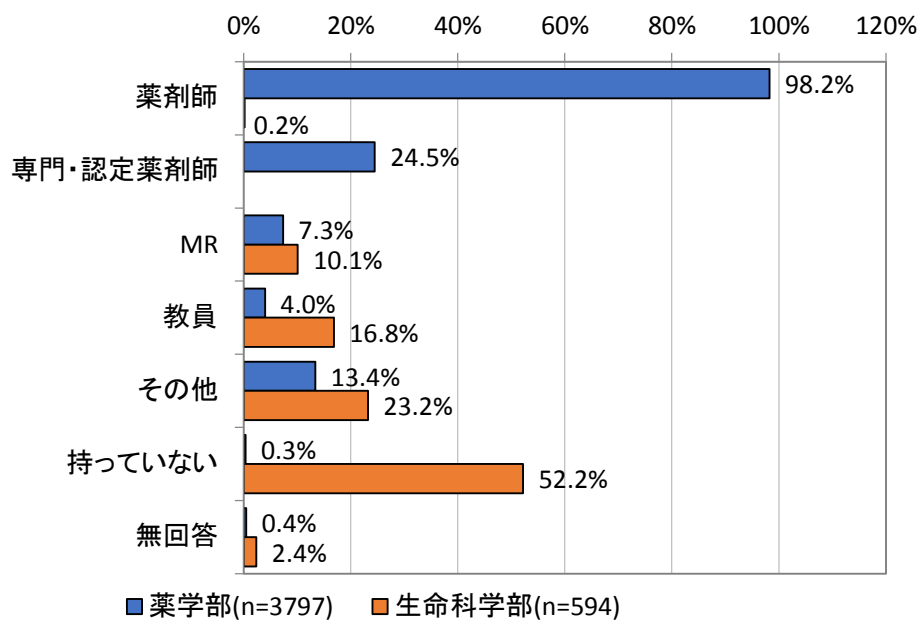


図 5-26 学部別 資格について (問30)

### 5-11 現在の仕事満足度

現在のお仕事の満足度について 0 から 10 の尺度できいたところ、両学部とも大きな差はなく、平均点は、薬学部 7.11 点、生命科学部 6.98 点だった。

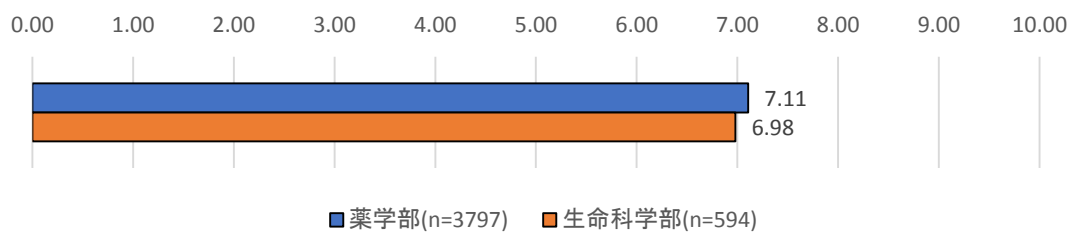


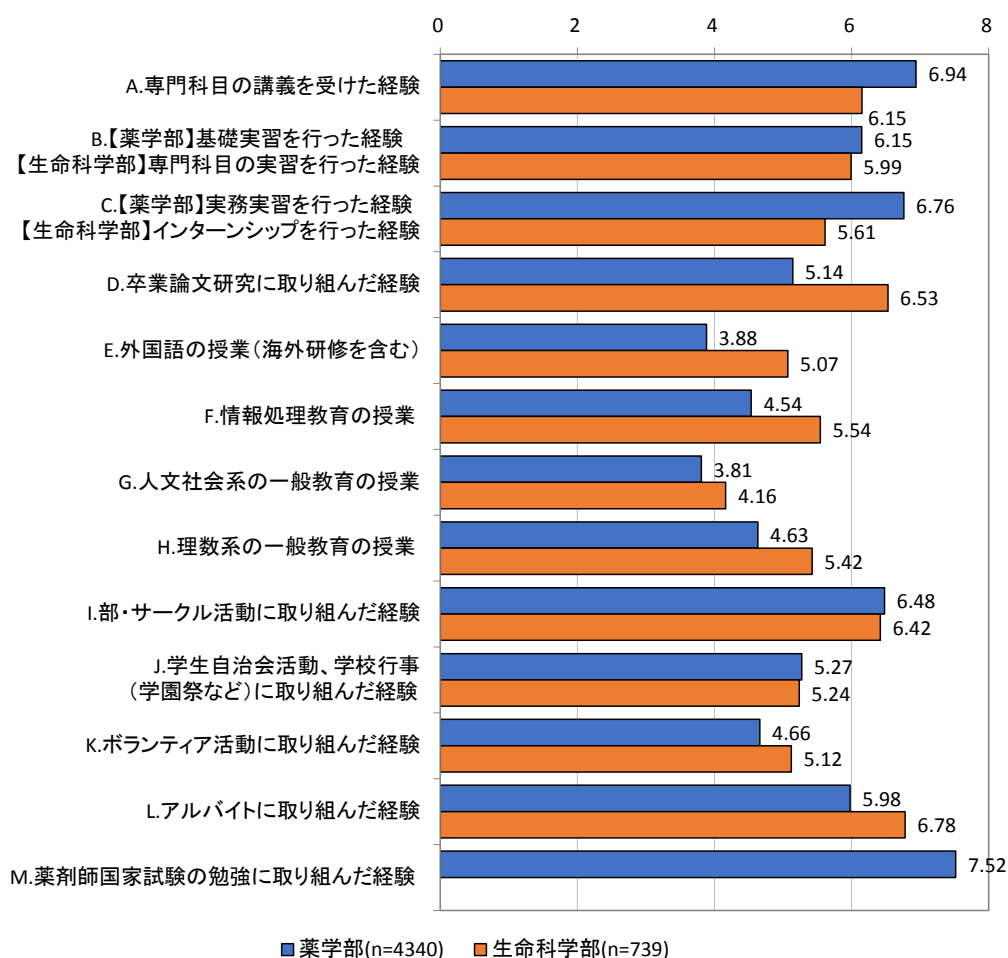
図 5-27 学部別 現在の仕事満足度 (10 点満点) (問 3 1)

## 第6章 仕事と暮らしについて

### 6-1 学部在学中の経験から現在の仕事・暮らしへの繋がり

学部在学中における経験の中で、現在の仕事や暮らしにどれくらい役に立っているかを10点満点できいたところ、薬学部は「薬剤師国家試験の勉強」が7.52点と最も高く、次いで「専門科目の講義を受けた経験」「実務実習を行った経験」の点数が高かった。

生命科学部においては、「アルバイトに取り組んだ経験」が6.78点と最も高く、次いで「卒業論文研究」「部・サークル活動に取り組んだ経験」の点数が高かった。



※ 「実務実習を行った経験/インターンシップを行った経験」「情報処理教育の授業」「部・サークル活動に取り組んだ経験」「学生自治会活動、学校行事(学園祭など)に取り組んだ経験」「ボランティア活動に取り組んだ経験」「アルバイトに取り組んだ経験」は、経験しなかったものは無回答扱いとしている。

図 6-1 学部別 学部在学中の経験から現在の仕事・暮らしへの繋がり (10点満点)  
(問32)

## 6-2 自分の生活

自分の生活についてどのように感じているかを 0 から 10 の尺度できいたところ、いずれの学部も「とても前向きなほうだと感じる」「いつも将来には楽観的であるとを感じる」「いつも将来には楽観的であるとを感じる」「自分が行っていることは重要で価値があると感じる」「自分が行っていることに達成感を感じる」の 5 項目については、平均点 6~7 点前後と高い。

一方で、「悪いことが起きると、元の自分に戻るのに時間がかかると感じる」については平均点 4 点台であった。

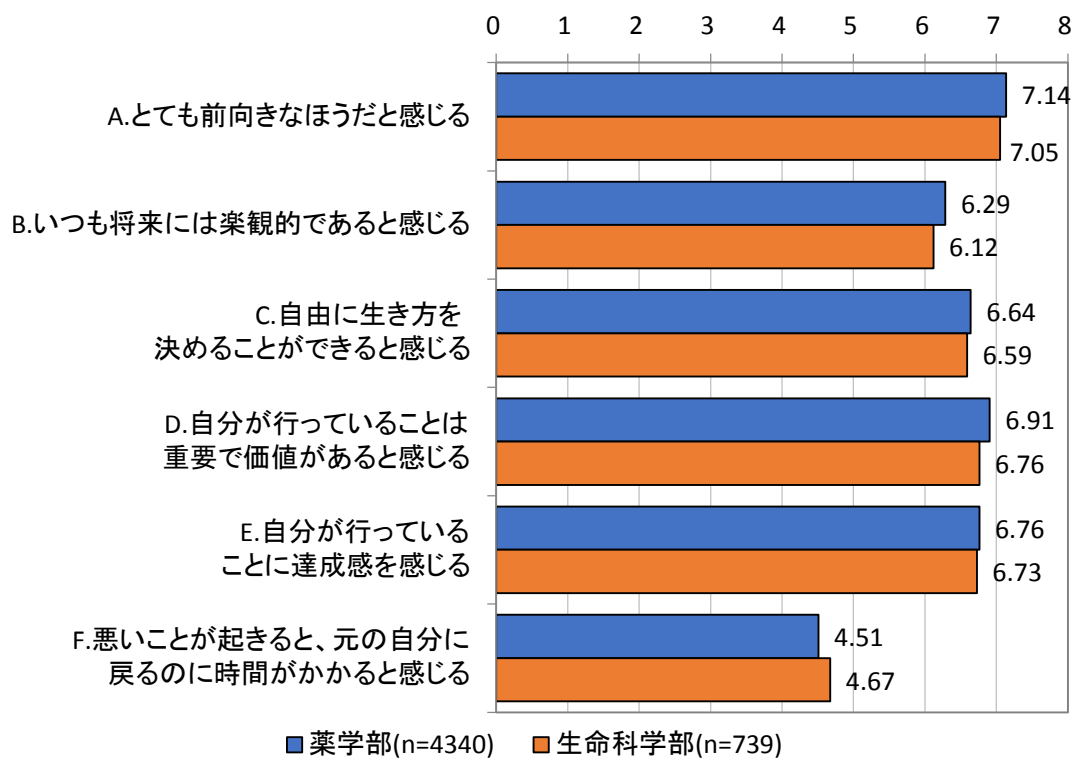


図 6-2 学部別 自分の生活について (10 点満点) (問 3 3)

### 6-3 生活全般への満足度

最近の自身の生活全般にどれくらい満足しているか 0 から 10 の尺度できいたところ、学部による大きな差はなく 7 点程度だった。

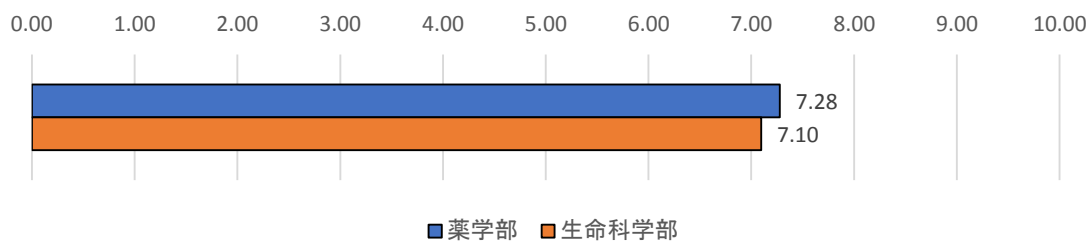


図 6-3 学部別 生活全般への満足度 (10 点満点) (問 3 4)

## 6-4 知識・能力の獲得状況

### 6-4-1 現在の知識・能力の獲得状況

現在、知識や能力をどのくらい身につけているかについてきいたところ、いずれの学部も「現在の仕事に必要な専門知識・技能（薬学部 76.0%・生命科学部 72.5%）」と「他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力（薬学部 78.2%・生命科学部 78.3%）」を身につけている（かなり身につけている+やや身につけている）と回答している割合が高い。

薬学部においては、「薬剤師として、生命の尊厳、患者の権利を尊重し、医療と薬の倫理を遵守する力」も 73.4%と回答割合が高い。

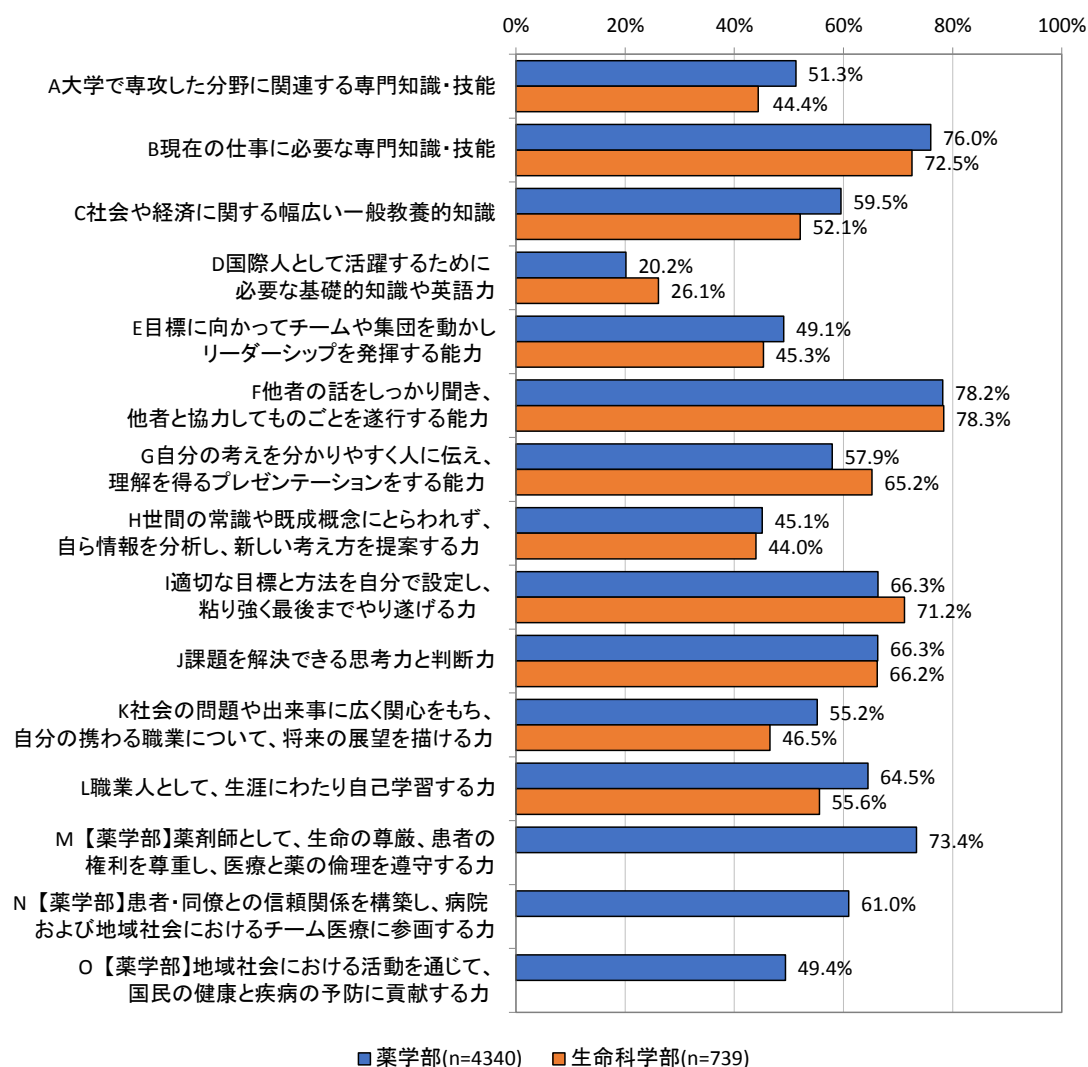


図 6-4 学部別 現在の知識・能力の獲得状況（問 35）

身につけている（かなり身につけている+やや身につけている）割合



## 6-4-2 卒業時の知識・能力の獲得状況

卒業時に知識や能力をどのくらい身につけていたかについてきいたところ、「大学で専攻した分野に関連する専門知識・技能」（薬学部 51.8%、生命科学部 61.3%）の割合が最も高い。

10～20%台の能力も多く、卒業時点では身につけていない能力が多いことがわかる。

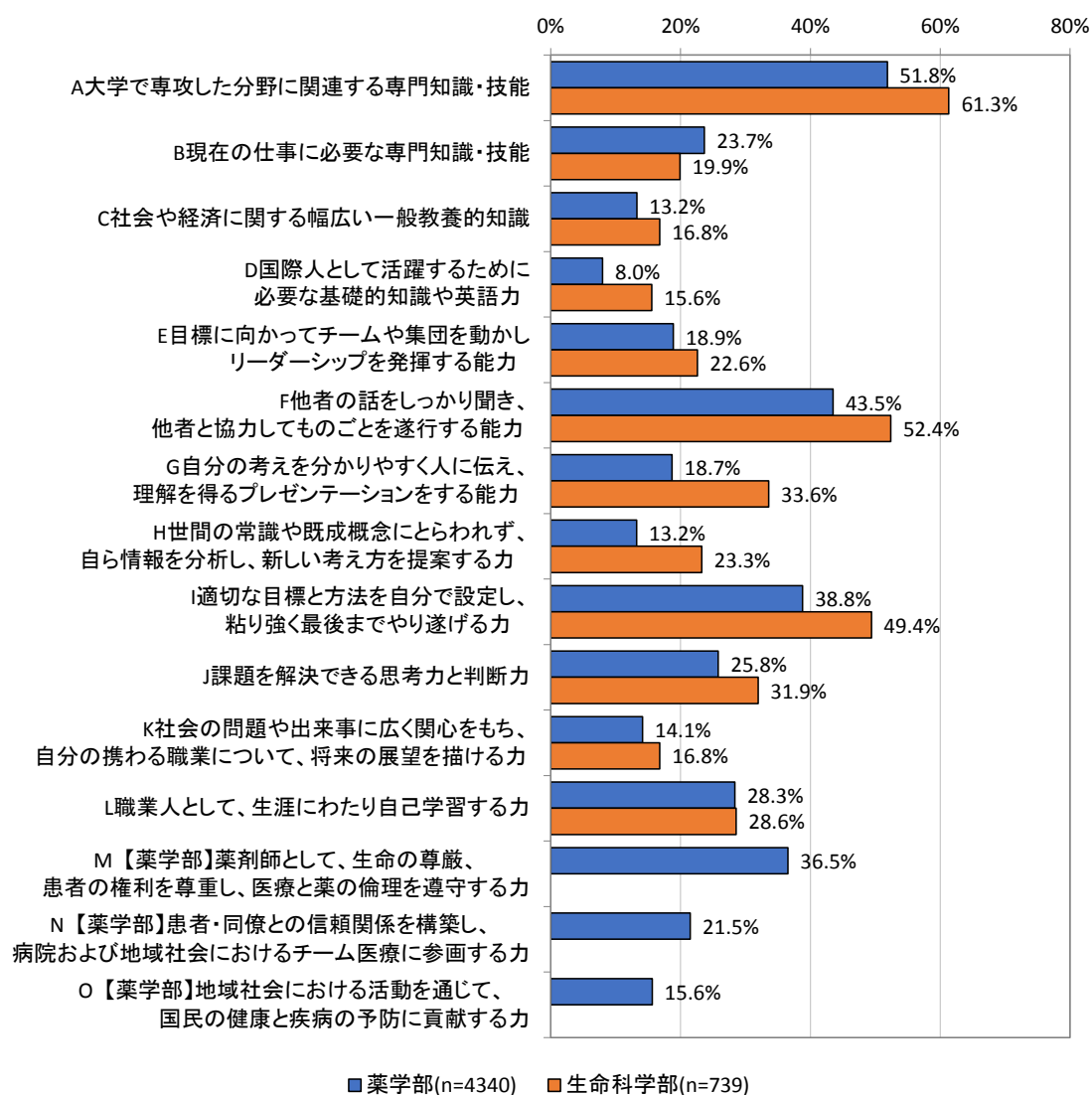


図 6-5 学部別 卒業時の知識・能力の獲得状況（問35）

身につけている（かなり身につけている+やや身につけている）割合

### 6-4-3 現在と卒業時の知識・能力の獲得状況比較

①現在と②卒業時に身につけた知識・能力を比較すると、特に「現在の仕事に必要な専門知識・技能」が50ポイント以上と、大きく伸びていることがわかる。「大学で専攻した分野に関連する専門知識・技能」以外の能力は、卒業後にも成長していることがわかる。

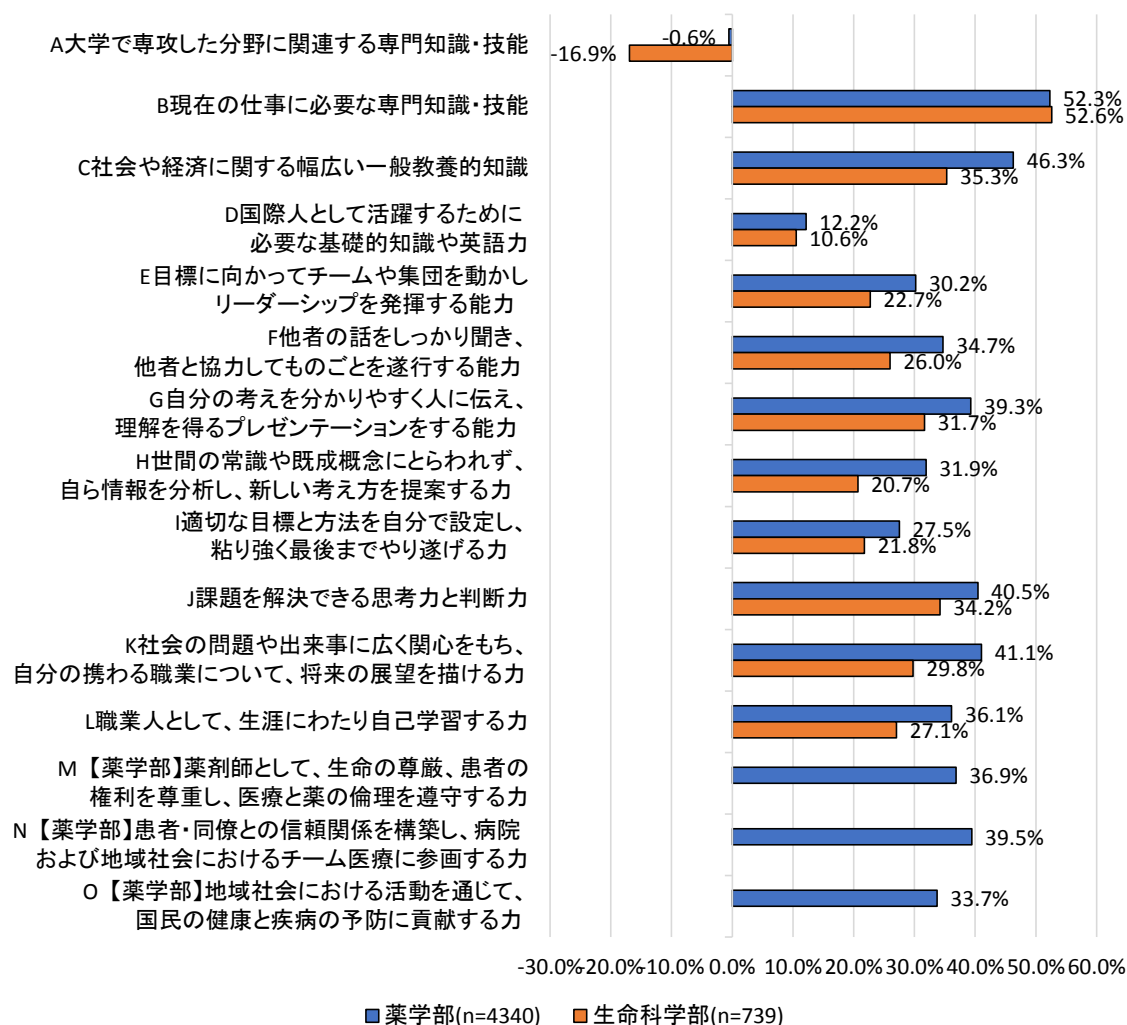


図 6-6 学部別 現在と卒業時の知識・能力の獲得状況比較（現在-卒業時）（問35）

#### 6-4-4 卒業時に身につけておく必要性

知識や能力を卒業時に身につけておく必要性について、「とても必要」と回答した割合をみると、「専門知識・技能」を除いた項目について、薬学部と比べ生命科学部が「とても必要」と回答した割合が高い。

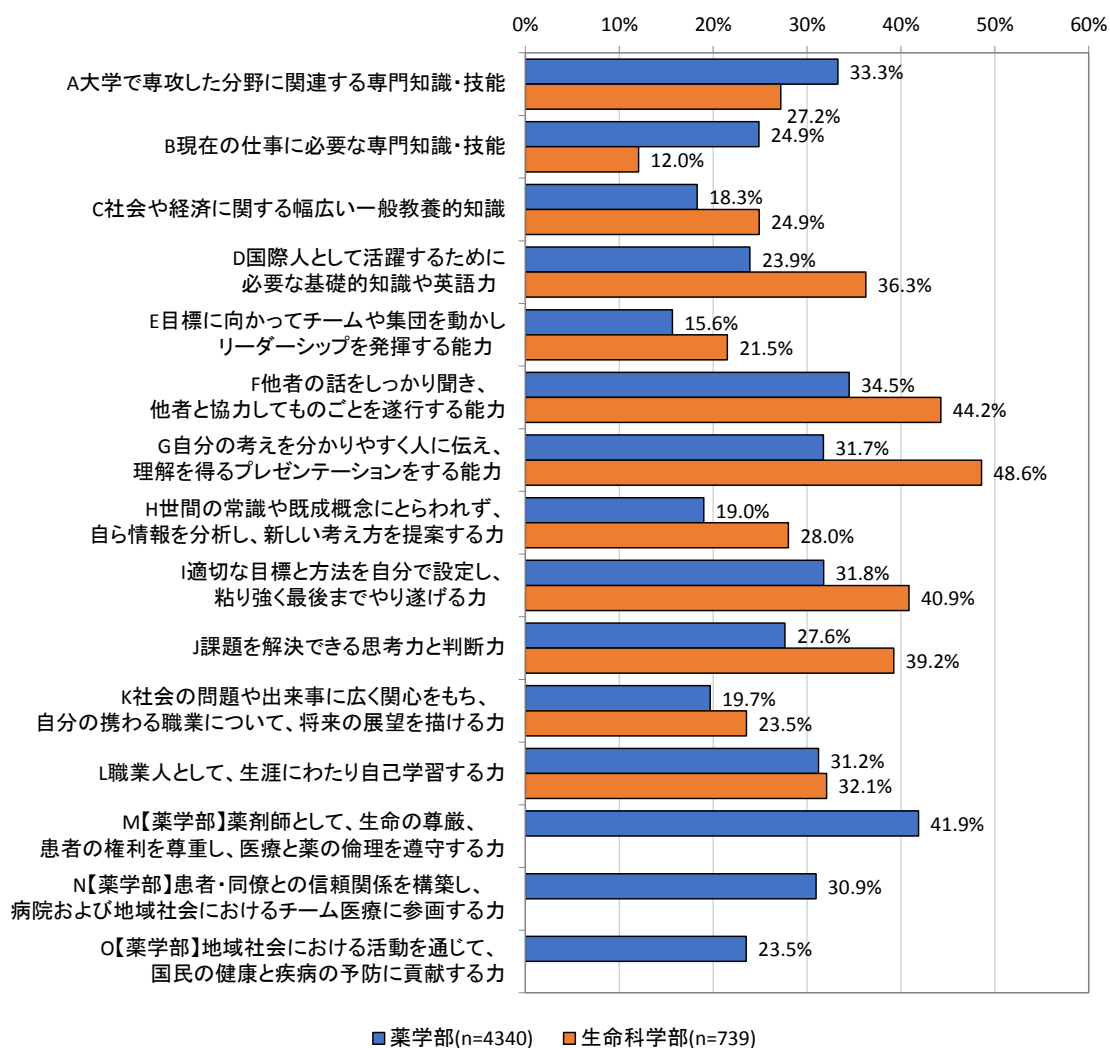


図 6-7 学部別 卒業時に身につけておく必要性（とても必要の割合）（問 3 5）

### 6-4-5 卒業時に身につけた能力と卒業時に身につけておくべき能力

卒業時に身につけた知識や能力と身につけておくべき知識や能力を比較すると、薬学部、生命科学部共に「国際人として活躍するために必要な基礎的知識や英語力」「自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーションをする能力」が、卒業時に「とくに必要」とする割合に比べて、卒業時に「身につけていた（かなり身につけていた+やや身につけていた）」とする割合が低い。

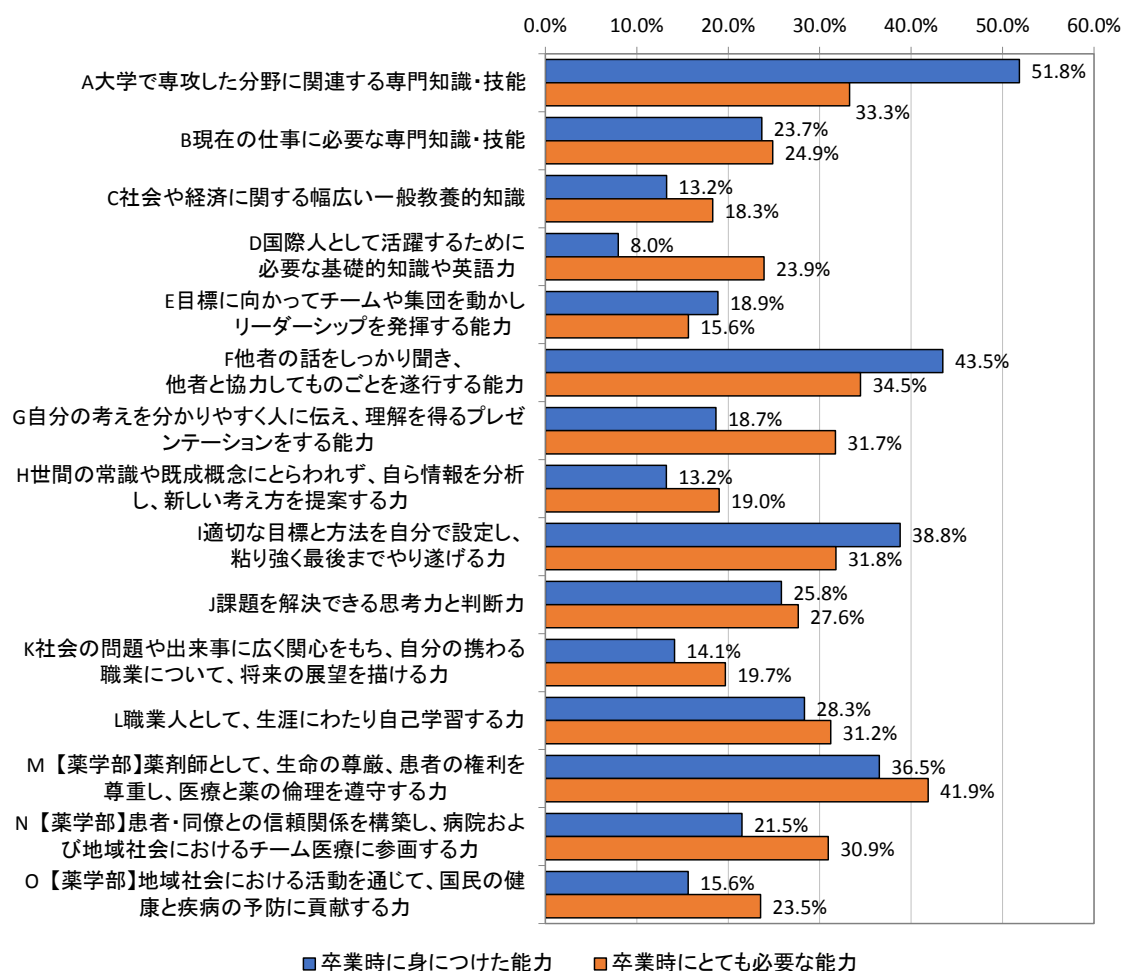


図 6-8 学部別 卒業時に身につけた能力と身につけておくべき能力の比較（薬学部）

(問 3 5)

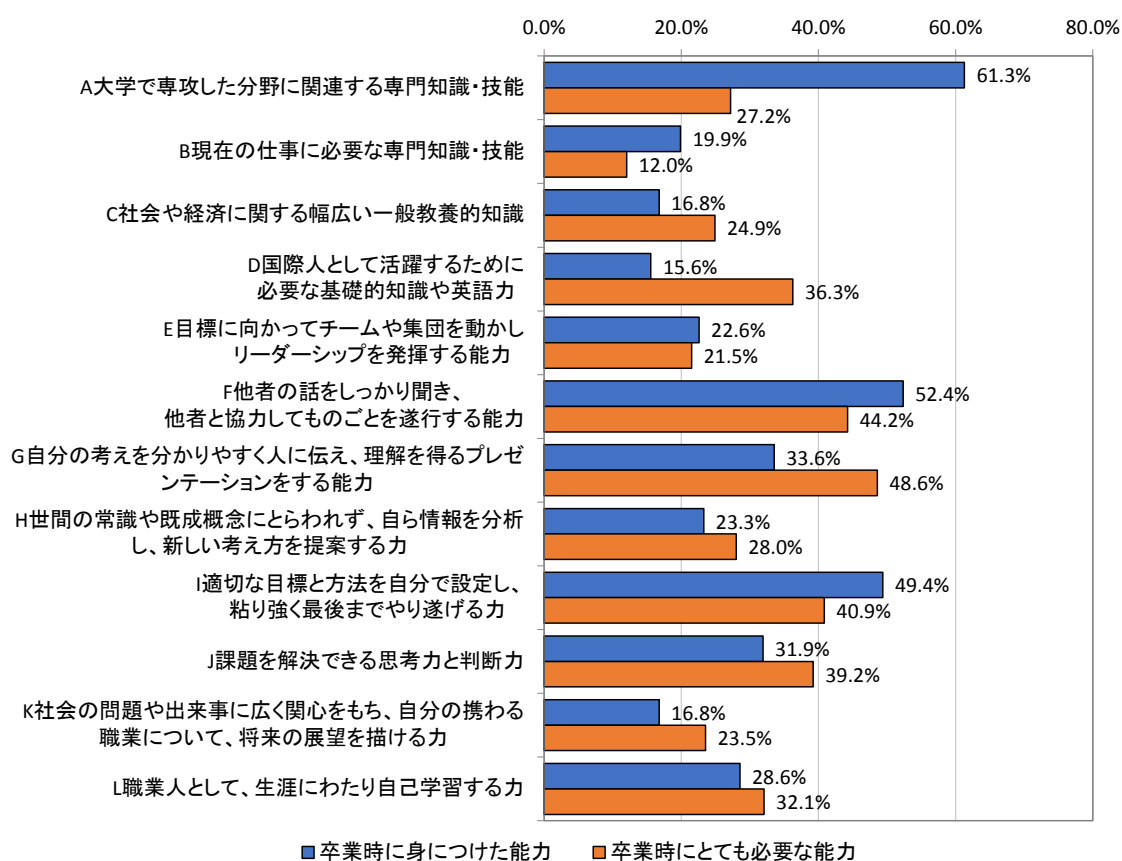


図 6-9 学部別 卒業時に身につけた能力と身につけておくべき能力の比較 (生命科学部)

(問 3 5)

### 6-5 東京薬科大学を卒業しての満足度

東京薬科大学を卒業して良かったと感じているかについてきいたところ、薬学部では59.5%が、生命科学部では46.3%が「良かった」と回答している。

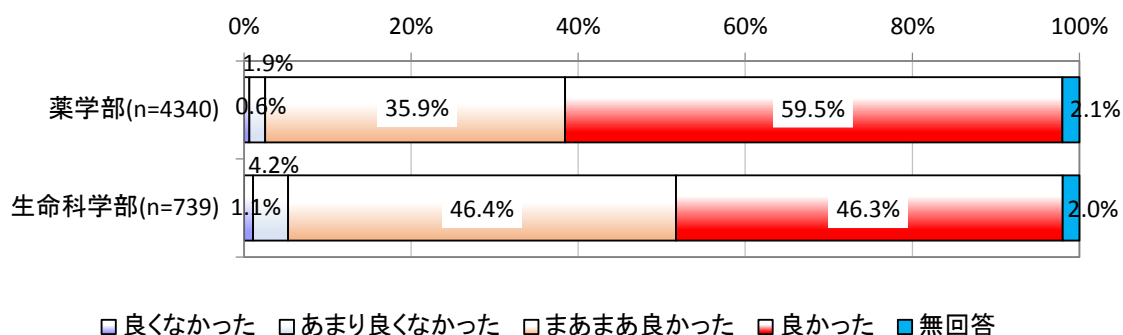


図 6-10 学部別 東京薬科大学を卒業しての満足度 (問 39)

### 6-6 薬学や生命科学に関心のある高校生に対して

薬学や生命科学に関心のある高校生に、東京薬科大学への進学を薦めたいと思うかについては、いずれの学部も8割以上が「そう思う(とてもそう思う+ややそう思う)」と回答した。

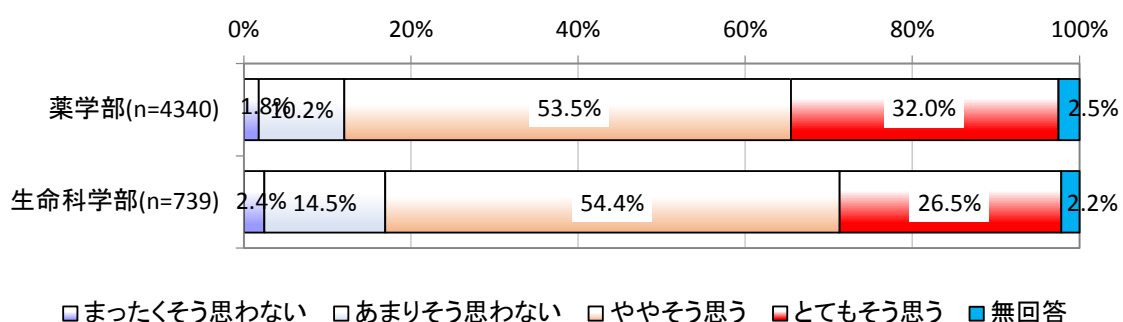


図 6-11 学部別 薬学や生命科学に関心のある高校生に対して東京薬科大学への進学を薦めたいと思うか (問 40)

## 6-7 年収及び世帯について

### 6-7-1 年収

昨年度の年収は、両学部ともに「400～499万円」「500～599万円」「600～699万円」が各1割前後と割合が高い。

生命科学部においては「収入はない」とする回答も1割を超えた。

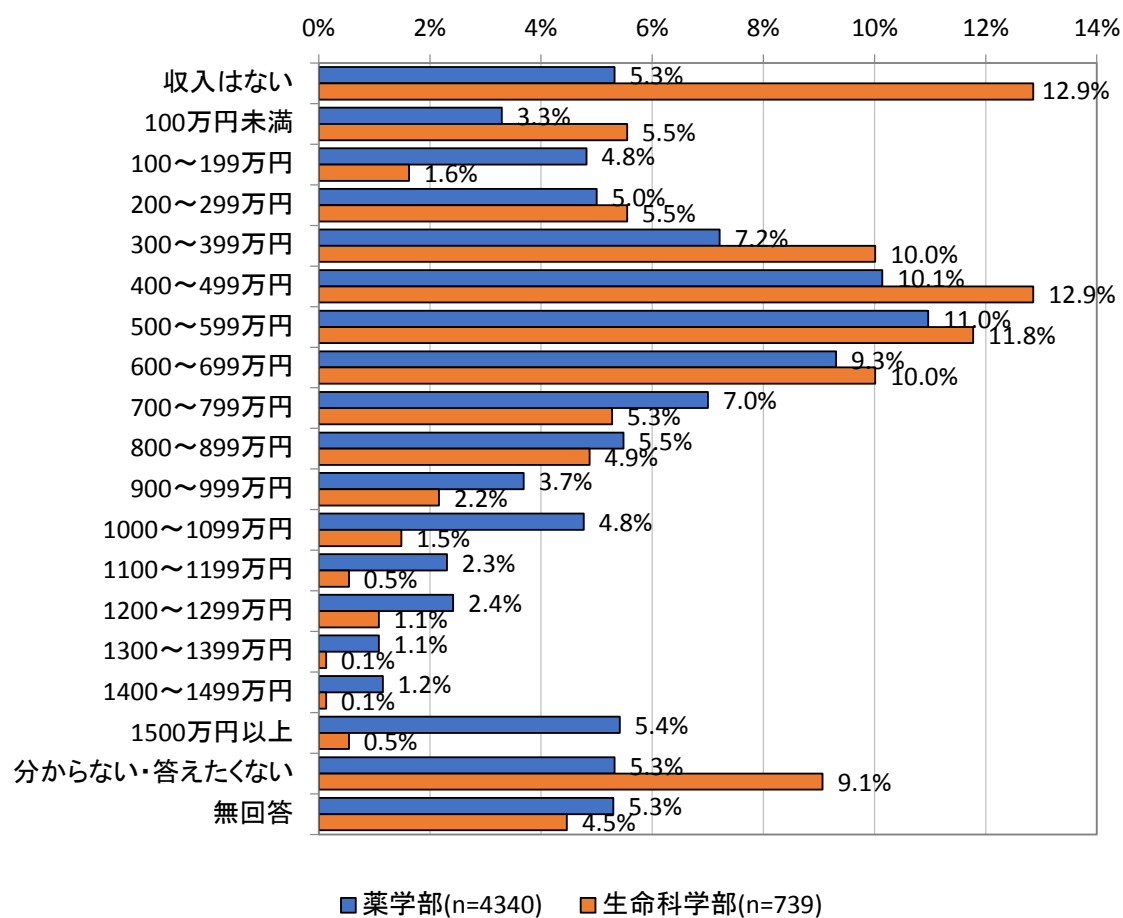


図 6-12 学部別 年収 (問 4 1 ①)

※本項目の回答者は定年退職者、専業主婦、修士・博士在学者等、現在働いていない人を含んでいます。

※回答者平均年齢は薬学部 48.0 歳、生命科学部 31.2 歳となります。

### 6-7-2 世帯年収

世帯年収についてきいたところ、薬学部では「1,000～1,499万円」が24.0%と最も割合が高く、次いで「500～799万円」が16.6%と高い割合だった。

生命科学部では「分からない・答えたくない」が23.7%と最も高く、次いで「500～799万円」が19.5%と割合が高い。

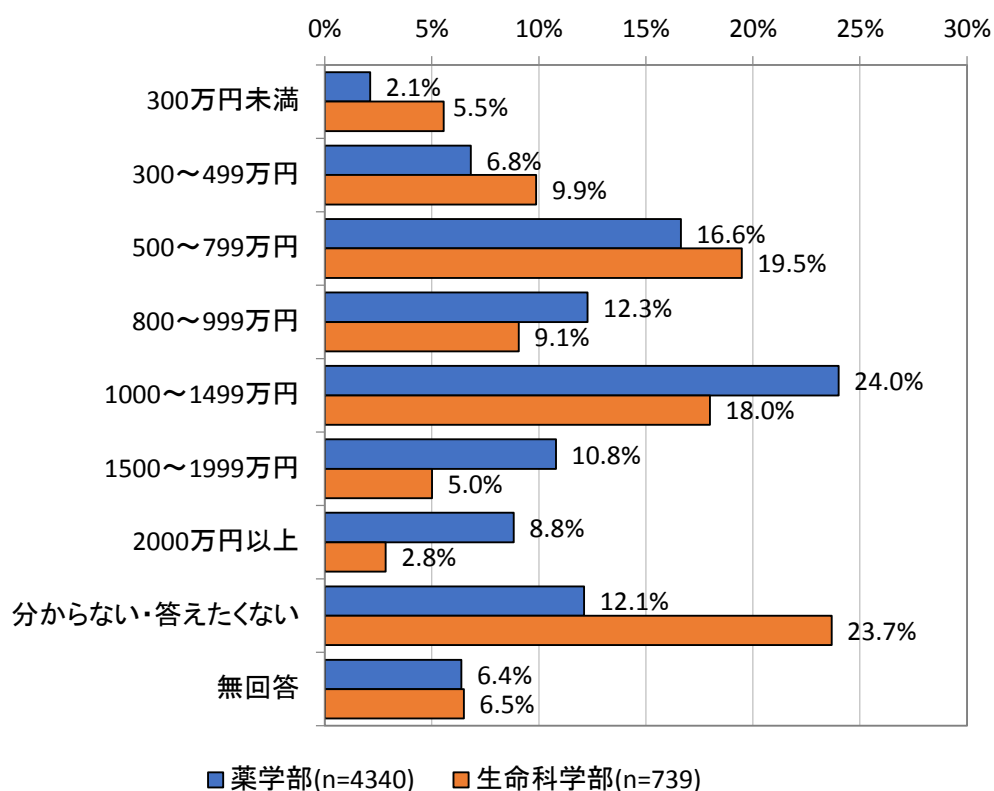


図 6-13 学部別 世帯年収 (問 4 1 ②)



### 6-7-3 同居している世帯の人数

同居人数をきいたところ、薬学部では「2人」が24.1%、「3人」が26.5%であった。一方、生命科学部では「1人」が28.8%と最も割合が高い。

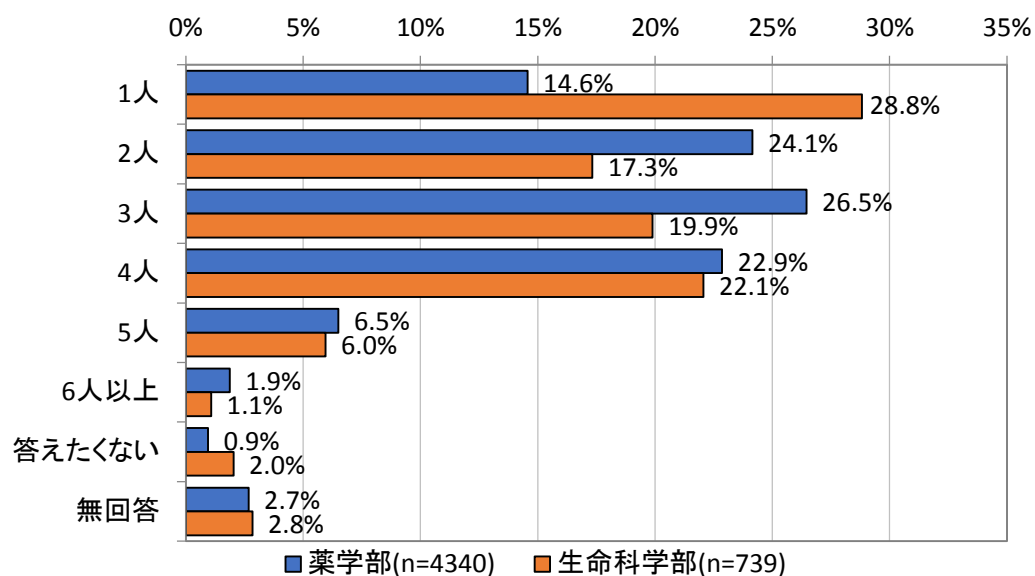


図 6-14 学部別 同居している世帯の人数 (問 4 1 ③)

#### 6-7-4 自身が中学3年生の時の父親の仕事

自身が中学3年生の時の父親の仕事を見ると、学部による大きな差はなく「1~2以外の会社員・公務員」であったとする回答が半数程度であった。

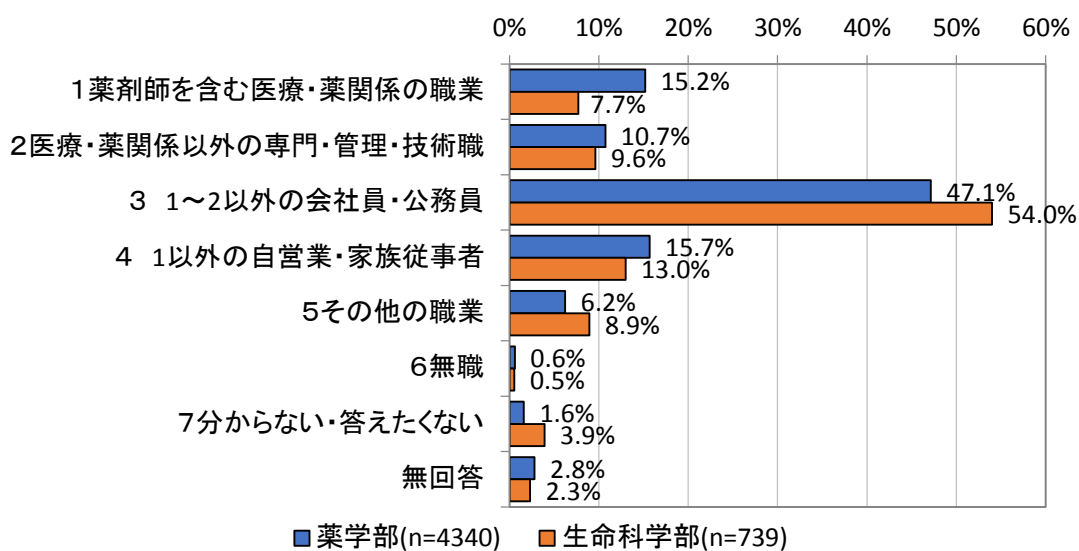


図 6-15 学部別 自身が中学3年生（15歳）の時の父親の仕事（問4 1④-A）

### 6-7-5 自身が中学3年生の時の母親の仕事

自身が中学3年生の時の母親の仕事を見ると、薬学部では4割、生命科学部で3割以上が「無職」であったと回答した。薬学部では、「薬剤師を含む医療・薬関係の職業」が12.9%であった。

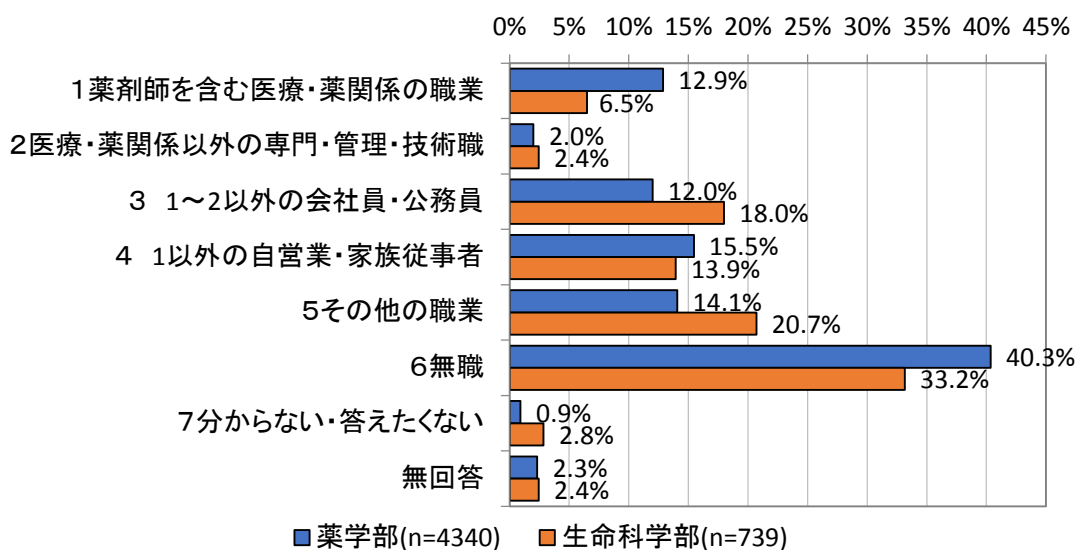


図 6-16 学部別 自身が中学3年生（15歳）の時の母親の仕事（問4 1④-B）

### 6-8 現在の生活について重視点

現在の生活で重視していることをきいたところ、薬学部では「家族と一緒の時間」が87.0%で最も割合が高く、生命科学部では「十分な余暇活動の時間」が86.6%で最も割合が高かった。

薬学では、「キャリアの将来性」の割合が68.8%と、他の項目と比べて低い値となっている。

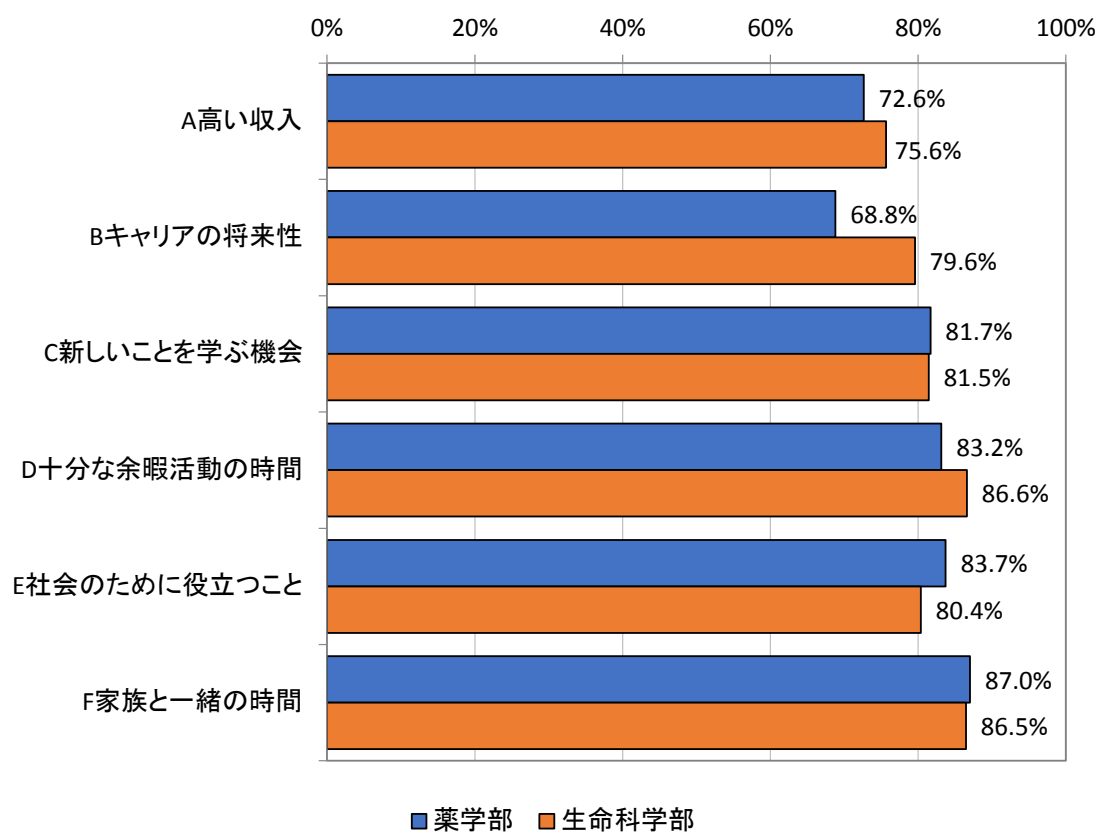


図 6-17 学部別 現在の生活について重視していること（問4 2）  
重視する（重視する+やや重視する）割合